

保存版

取り出しやすいところに保管してください



直方市 防災ブック

あなた自身と
あなたの大切な人を、
災害から
守りましょう。

目次

- 防災ブックの活用方法…………… 1
- 避難のタイミング…………… 2
- 避難のポイント…………… 3～4
- 感染症対策…………… 5～6
- 避難所での過ごし方…………… 7～8
- 洪水…………… 9～10
- 土砂災害…………… 11～12
- 地震…………… 13～14
- 風水害・台風・高潮・
雷・竜巻…………… 15～16
- 火災…………… 17
- その他の事故にも注意!…………… 18
- ペット防災…………… 19
- 住まいが被害を受けたとき
最初にあること…………… 20
- 日頃の備え…………… 21～22
- 防災対策&チェック…………… 23～24
- 非常時持ち出し品・備蓄品の準備
&チェック…………… 25～26
- マイ・タイムラインの作成…………… 27～30
- 防災情報の収集…………… 31～32
- 避難所一覧…………… 33～34
- ハザードマップの見方…………… 35
- 全体図…………… 36
- ハザードマップ…………… 37～54
- わが家の「緊急・救急情報」
防災メモ…………… 裏表紙

防災ブックの活用方法

避難のタイミング

- 防災ブックは、見やすい場所に置き、常に確認できるようにしてください。
- 防災ブックに表示してある危険箇所については、洪水、土砂災害、浸水、高潮等の発生する可能性のある場所を示しています。自宅周辺の危険箇所を確認しましょう。
- 避難する場合に備え、最寄りの指定避難所や親戚・知人の家などを確認しておきましょう。

ステップ
1

自宅周辺の「災害リスク」を知りましょう。

自宅周辺に洪水・高潮浸水想定区域及び土砂災害区域があるのか確認しましょう

▶37～54ページ 洪水・土砂災害・高潮ハザードマップ

ステップ
2

自宅周辺の「最寄りの避難所」を知りましょう。

避難所一覧から確認しましょう ▶33～34ページ 避難所一覧
ハザードマップから確認しましょう ▶37～54ページ 洪水・土砂災害・高潮ハザードマップ

ステップ
3

非常時持ち出し品・備蓄品を知りましょう。

非常時持ち出し品・備蓄品を確認しましょう
※家族構成、個人で持ち出し品は変わります

▶25～26ページ 非常時持ち出し品・備蓄品の準備&チェック

ステップ
4

その他防災情報を確認しましょう。

市役所及び各関連機関が発信する正確な情報を確認しましょう

▶31～32ページ 防災情報の収集

オリジナルマップの作成

家族で話し合ったことなどもふまえ、自宅から指定避難所や親戚・知人の家など避難する場所までの経路や危ない場所などを記載したオリジナルマップを作成し、家族で共有しておきましょう。

指定避難所等

災害が起きたときに避難する場所をあらかじめチェックしておきましょう。

危険な場所

川の近くなど、洪水時に危険となるような箇所には印をつけておいて、その道は通らないようにしましょう。

目印となる場所

避難経路上で目印となる箇所を書き込みましょう。特に曲がり角には分かりやすい目印を書き込みましょう。

避難経路

指定避難所等までの経路を書き込みましょう。

自宅

あなたの自宅を書き込みましょう。

避難について考えましょう

避難しようとするのは「あなた自身」です。過去の災害で大丈夫だったからといって安心できません。避難することで助かるのは、「あなたの命」であることを強く認識してください。

ハザードマップを確認しましょう！

☐ 危険地域の中や周辺にお住まいの人

周辺の避難所や避難経路を確認しておきましょう。

☐ 危険地域の外にお住まいの人

自宅での安全確保のための備えや、周辺の避難所や避難経路を確認しておきましょう。

☐ 「指定避難所」以外への避難も

避難先は学校・公民館などの指定避難所だけでなく、より安全な近くの親戚や知人の家、ホテルなどを自主避難先として検討しましょう。

避難行動

避難行動には大きく2つの考え方があります。

① 立退き避難(水平避難)

安全な場所まで立退き避難

※夜間に大雨が予想される場合は、明るい時間帯に避難をすませておくことも大事です。

② 屋内安全確保(垂直避難)

自宅内の高い場所へ避難

がけや山から離れた部屋へ避難

避難を判断するための情報(警戒レベルと防災気象情報)

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等(警戒レベル)				河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません! ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5相当 氾濫発生情報	大雨特別警報(土砂災害)
<警戒レベル4までに必ず避難!>					
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4相当 氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 ・「高齢者等」は障がいのある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をし、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3相当 氾濫警戒情報 洪水警戒情報	大雨警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意情報	2相当 氾濫注意情報	---
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1相当 ---	---

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集

1

2

避難のポイント

避難の心得

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、「**自分の命は自分で守る**」という意識を持って行動しましょう。

具体的には

- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
- 河川のはん濫により、浸水の危険がある地域に住んでいる。
- 子どもや高齢者など家族に要配慮者がいる。



気象情報や市の避難情報に注意し、早めの避難を心がけてください。

命を守る最低限の行動を

危険な状況の中での避難は出来るだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定避難所への移動だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。

具体的には

- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。



屋外での移動は危険です。自宅や近隣建物の2階以上へ(土砂災害の場合は、斜面から離れた部屋など)緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。

避難時の心得

■ 非常持ち出し品は最小限に!

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、身軽に行動できるよう持ち出し品は最小限にしましょう。



■ 家族の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。



■ 外出中の家族には連絡メモを残そう!

避難前にはガスの元栓やブレーカーを切り、外出中の家族に「どこどこへ避難する」といったような連絡メモを残しておくとい良いでしょう。



■ 避難所に避難するときは

水や食料、常備薬、防寒対策グッズなどのほか、感染症対策に体温計やアルコール消毒液などを持っていきましょう。また、避難所に行く前に検温とマスクの着用を徹底しましょう。



避難のポイント

■ 避難する前に

電気のブレーカーを落とし、ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。

■ 浸水した道路を通る場合

水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。

■ 徒歩での避難を!

車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。車中泊避難などの場合を除き徒歩で避難しましょう。



■ 一人暮らしの高齢者などには気配りを

近所の一人暮らしの高齢者や病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。日ごろから近所同士で事前に話をしておきましょう。

■ 速やかに避難しましょう

避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか?

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として*、自宅の外に避難が必要です。

例外

※浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる水・食糧などの備えが十分にある場合は、自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、市が開設している指定避難所に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

はい

警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル4避難指示が出たら、市が開設している指定避難所に避難しましょう

感染症対策

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の予防には、「手洗い」、マスクの着用を含む「咳エチケット」、「換気」などが有効です。
特に高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクが高まります。帰省などで高齢の方と会ったり、大人数で集まったりするときは、マスクの着用を含めた感染対策へのご協力をお願いします。

！ 感染症対策へのご協力をお願いします

① 手洗い 正しい手の洗い方

【手洗いの前に】・爪は短く切っておきましょう ・時計や指輪は外しておきましょう

① 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



② 手の甲をのばすようにこすります。



③ 指先・爪の間を念入りにこすります。



④ 指の間を洗います。



⑤ 親指と手のひらをねじり洗います。



⑥ 手首も忘れずに洗います。



石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

② 咳エチケット

3つの咳エチケット 電車や職場、学校など人が集まるところでやろう



正しいマスクの着用

① 鼻と口の両方を確実に覆う



② ゴムひもを耳にかける



③ 隙間がないよう鼻まで覆う



厚生労働省ホームページより抜粋、編集

感染症対策をふまえた避難のポイント

知っておくべき5つのポイント

1. 避難とは[難]を[避]けること。安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。
2. 避難先は、小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅・ホテルに避難すること考えてみましょう。
3. マスク・消毒液・体温計が不足します。できるだけ自ら携行してください。
4. 市が指定する避難所が変更・増設されている可能性があります。災害時には市ホームページ等で確認してください。
5. 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分確認してください。



内閣府ホームページより抜粋、編集

感染症対策で非常持ち出し品に加えたいもの

- ① マスク
- ② アルコール消毒液
- ③ ハンドソープ・固形石けん（家族もしくは自分用を持参・避難所では共用しない）
- ④ 使い捨てのビニール手袋（ドアノブなど多くの人が触れるものからの接触感染を防ぐため）
- ⑤ 使い捨てのビニールエプロンまたはゴミ袋（避難所運営を協力する際などに使用）
- ⑥ 体温計（自治体で用意出来ない場合があるため。使い慣れたものを持参しましょう）
- ⑦ 上履き（スリッパでも可）（床からの接触感染防止、滑り止め付き・転倒防止・静音機能）
- ⑧ ティッシュ、ウェットティッシュ、ペーパータオル、ポリ袋（通常よりも多めに必要）
- ⑨ 携帯トイレ（トイレは我慢してはいけません。避難所のトイレが使えない場合に備えましょう）



避難所での過ごし方

避難所では、限られた空間の中でたくさんの方々が生活します。
ルールを守り、住民が主体的に避難所運営に関わり、良好な環境を保ちましょう。

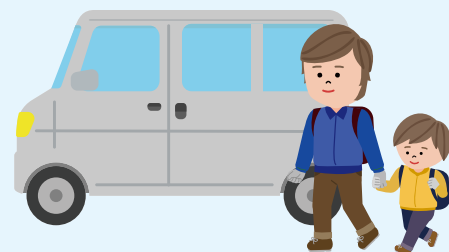
■ 避難所の所在の確認

- 地域のどこが指定避難所となっているのかを確認しておきましょう。
- 災害時の被災状況等によっては、最寄りの指定避難所が開設できない場合があります。市のホームページ等で確認しておきましょう。
- 地域の防災訓練などに参加し、普段から助け合える関係をつくっておきましょう。



■ 車中泊避難の注意点

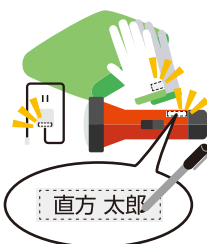
- 車中泊避難は、プライバシーの確保、エアコンの完備、ラジオからの情報入手などの利点もありますが、健康を損ねるなどの危険性もあります。エコノミークラス症候群による関連死、排気ガスによる一酸化炭素中毒に注意しましょう。



避難所生活

生活ルールを守りましょう

- 所持品は、1か所にまとめて、緊急時にはすぐに持ち出せるようにしましょう。
- 避難者同士がトラブルにならないためにも、所持品に名前を書いておきましょう。
- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、喫煙場所など避難所のルールを守りましょう。



役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受け付けや清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担をしましょう。
- 助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



生活環境を衛生的に

- ゴミは所定の場所へ。
- トイレや浴室などの衛生を保ちましょう。発災後にトイレが使用できない場合に備えて簡易トイレなども備蓄しておくとう便利です。
- 掃除などは定期的に行い、清潔な状態を保ちましょう。

災害時要配慮者への配慮

- 障がいのある人や高齢者、妊産婦の方には、手助けをしましょう。
- 車いすが通行できるよう、バリアフリー化をしましょう。
- おむつ交換や補装具交換が必要なときは、間仕切りやカーテンを設けるなどの配慮をしましょう。
- ちょっとした工夫と配慮で、みんなが生活しやすい環境をめざしましょう。

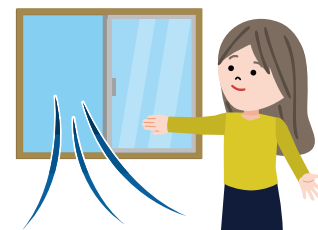
健康管理に気を付けましょう

■ 一酸化炭素中毒

車の中に避難している場合には、長時間冷暖房をつけっぱなしにしていると一酸化炭素中毒の危険性が高まります。また、狭い屋内でストーブなどを使う場合も同様です。
新鮮な空気と入れ替えることが重要です。

予防対策

- こまめに窓を開けるなど、換気をしましょう。
- 暖房機器についている排気口に異常がないか確認しておきましょう。



感染症対策

災害が発生した場合の避難所では、密閉した空間の中での集団生活等により新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザや風邪等の感染症のリスクが高まる恐れがあります。
少しでも感染リスクを軽減するために次のことについて、地震や風水害発生時の避難に備えて平時から準備をお願いします。

避難者の健康状態の確認

避難者の健康状態を確認するため、避難所に入られる際は、ご自宅での体温測定にご協力願います。なお、発熱、咳などの症状がある方は、かかりつけ医に相談の上、可能であれば旅館やホテル等での避難も検討してください。

親戚や友人の家等への避難の検討

避難時に、避難所が過密状態になることを防ぐために、可能な場合は親戚や友人の家、ホテル等へ避難することを検討しておいてください。

手洗い、咳エチケット等の基本的な対策の徹底

避難者は頻繁に手洗いをするともに、マスクの着用による咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。

避難所の衛生環境の確保

避難者が共有する物品やスペースは、定期的に家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。
なお、避難所の備蓄品には限りがあります。水や食料品などに加え、自身の健康状態を確認するために体温計を持参するなど、可能な限り必要なものは持参してください。

犯罪に気を付けましょう

避難所では窃盗や詐欺、性犯罪、押し売りなどの犯罪に注意して、怪しい人を見かけたら、警察官や施設担当者連絡しましょう。

■ エコノミークラス症候群

エコノミークラス症候群とは、長時間足を動かさないでいることで足の静脈に血栓(血の塊)ができ、歩き出した後などに血栓の一部が血流に運ばれて肺や脳の血管をふさいでしまう病気です。肺栓塞や脳卒中を発症するおそれもあります。長時間飛行機に乗った場合などに見られることからこの名がついています。

避難所ではできるだけ体を動かすようにしましょう。






予防対策

- できるだけ体を動かしましょう。
- 座ったままでも、足の指やつま先を動かすなど足の運動をしましょう。
- 十分な水分をとり、脱水症状にならないようにしましょう。
- 避難所ではゆったりとした服装で過ごしましょう。



洪水

雨の強さと降り方(1時間降雨量)

1時間雨量	10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る	息苦しくなるような圧迫感がある
					
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)の様子	雨の音で話し声がよく聞きとれない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	

気象庁ホームページより抜粋、編集

河川水位情報

川の水位が大雨で「避難判断水位」に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合、「はん濫警戒情報」を公表することがあります。川沿いでは情報に注意し、すばやい行動を心がけましょう。国土交通省川の防災情報で各水位観測所の水位を確認できます。



河川名	遠賀川	遠賀川	彦山川
観測所	日の出橋	勘穴橋	中島
はん濫危険水位	8.1m	—	—
避難判断水位	7.1m	—	—
はん濫注意水位	5.9m	5.2m	5.0m
水防団待機水位	4.6m	3.8m	3.7m

福岡県総合防災情報ホームページより抜粋、編集

洪水における避難のポイント

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

はん濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。

！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。

！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、はん濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。

！ 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子の確認は、ライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。

！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。

！ アンダーパスは危険

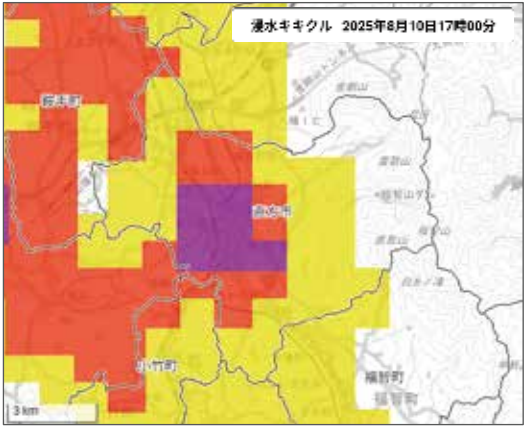
道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。

キキクル(危険度分布)

どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。

※イメージ図は福岡管区気象台より画像提供

■ 浸水キキクル 大雨警報(浸水害)の危険度分布



紫:低地は危険

■ 洪水キキクル 洪水警報の危険度分布



紫:河川沿いは危険

指定河川洪水予報
国管理河川の洪水の危険度分布(水害リスクライン)
川の左岸と右岸の危険度をそれぞれ示す
灰色は非表示区間・欠測
洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)

本川の増水に起因する内水氾濫(湛水型の内水氾濫)の危険度
河川の増水によって周辺の支川・下水道からの排水ができなくなることで発生する内水氾濫による洪水被害のおそれがあると認められるときに発表。
警戒【警戒レベル3相当】
注意【警戒レベル2相当】

記録的短時間大雨情報

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表します。

この情報は、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために、雨量基準を満たし、かつ、大雨警報発表中に、**キキクル(危険度分布)**の「危険」(紫)が出現している場合に気象庁から発表されます。

この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを**キキクル(危険度分布)**で確認してください。

顕著な大雨に関する気象情報

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「**線状降水帯**」というキーワードを使って解説する情報です。

この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。**警戒レベル4相当以上の状況で気象庁から発表されます。**

顕著な大雨に関する情報が発表されていなくとも、広範囲で激しい雨が長時間継続するような場合には、甚大な災害が発生する場合があります。

顕著な大雨に関する情報を待つことなく、災害発生の危険度の高まりを示す**キキクル(危険度分布)**を活用いただくことが極めて重要です。

内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集

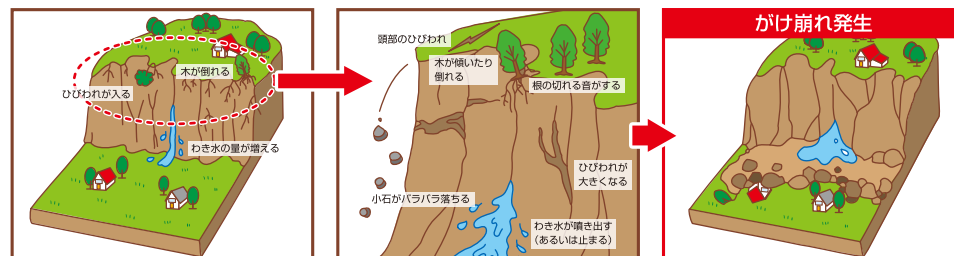
土砂災害

土砂災害の種類

土砂災害は、大きく分けてがけ崩れ(急傾斜地の崩壊)、土石流、地滑りの3種類に分類される。

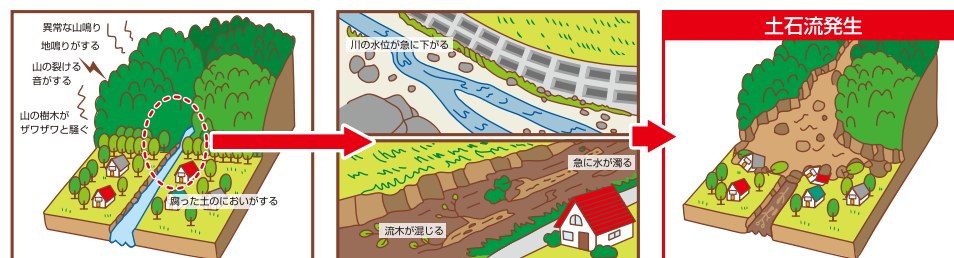
がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

雨などの影響によって、土の抵抗力が弱まり、急激に斜面が崩れ落ちる現象。ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高い。



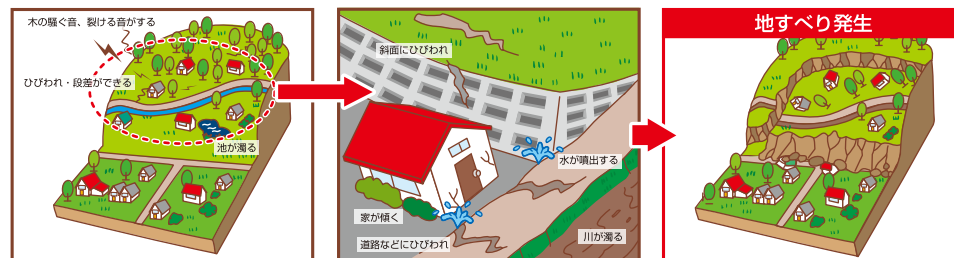
土石流

山腹や溪床を構成する土砂石礫の一部が雨などによって水と一体となり、一気に下流へ押し流される現象。流速20~40km/hで一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまう。



地すべり

斜面の土塊が地下水などの影響により、すべり面に沿ってゆっくりと斜面下方へ移動する現象。一般的に広範囲に及び移動土塊量が大きいいため甚大な被害を及ぼす可能性が高い。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。
出典:国土交通省ウェブサイトを加工して作成

土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域

出典:国土交通省ウェブサイトを加工して作成

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。危険な場所からの避難が必要な警戒レベル4に相当します。土砂災害警戒情報が発表されたときは、いつ土砂災害が起きてもおかしくない、非常に危険な状態です。土砂災害の前兆現象を感じたら、早急に避難をしましょう。

気象庁等による気象情報

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがある状況

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがある状況

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生の危険度が非常に高まったとき、都道府県と気象庁が共同で発表

さらに
大雨が続くと

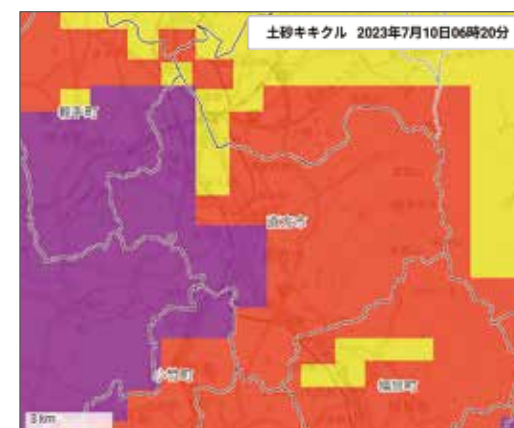
気象庁ホームページより抜粋、編集

キキクル(危険度分布)

どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。

土砂キキクル 大雨警報(土砂災害)の危険度分布

※イメージ図は福岡管区気象台より画像提供



紫・崖・渓流の近くは危険

土砂災害の危険度

高	災害切迫【警戒レベル5相当】
危険度	危険【警戒レベル4相当】
警戒	警戒【警戒レベル3相当】
注意	注意【警戒レベル2相当】
低	今後の情報等に留意

土砂災害警戒情報

※P10「記録的短時間大雨情報」や「顕著な大雨に関する気象情報」についてもあわせてご覧ください

大雨警報(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

危険な場所からの避難が必要な**警戒レベル4に相当します。**

土砂災害警戒情報が発表された市町村内で**危険度が高まっている詳細な領域は土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)で確認できます。**

土砂災害によって命が脅かされる危険性が認められる土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、遅くとも該当領域に「危険」(紫色)が出現した時点で速やかに避難を開始することが大変重要です。

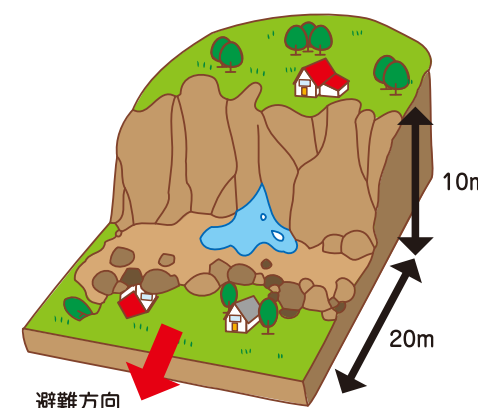
周囲の状況や雨の降り方にも留意し、危険を感じたら躊躇することなく自主避難を行いましょう。

内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集

土砂災害における避難のポイント

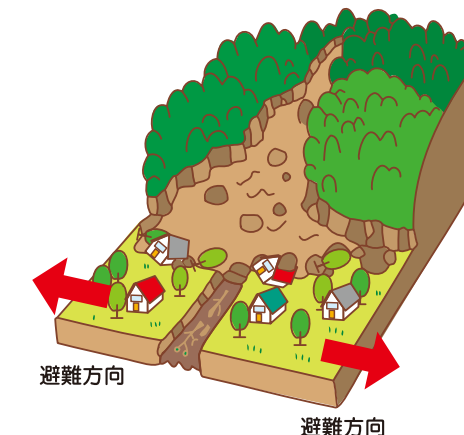
がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、がけ崩れの土砂は、地面が平らなところではがけの高さの2倍の距離までくるといわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



土石流のおそれがある場合

渓流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れと直角の方向に逃げましょう。また、土石流が曲がる箇所では、かなり高い位置まで土石流がかけ上がるので、曲がりの外側のほうが内側より危険性が高くなります。



地震

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1～2分

3分

5分

10分
数時間
3日

■ 最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する

■ 揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等要注意

■ みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に 声をかけよう

- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 ●電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意

■ ラジオなどで正しい情報を得る

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する

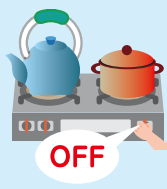
■ 協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

■ 屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隔し、係員の指示を聞く。
- あわてずに冷静な行動をとる。

■ 屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- 注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

車を運転中

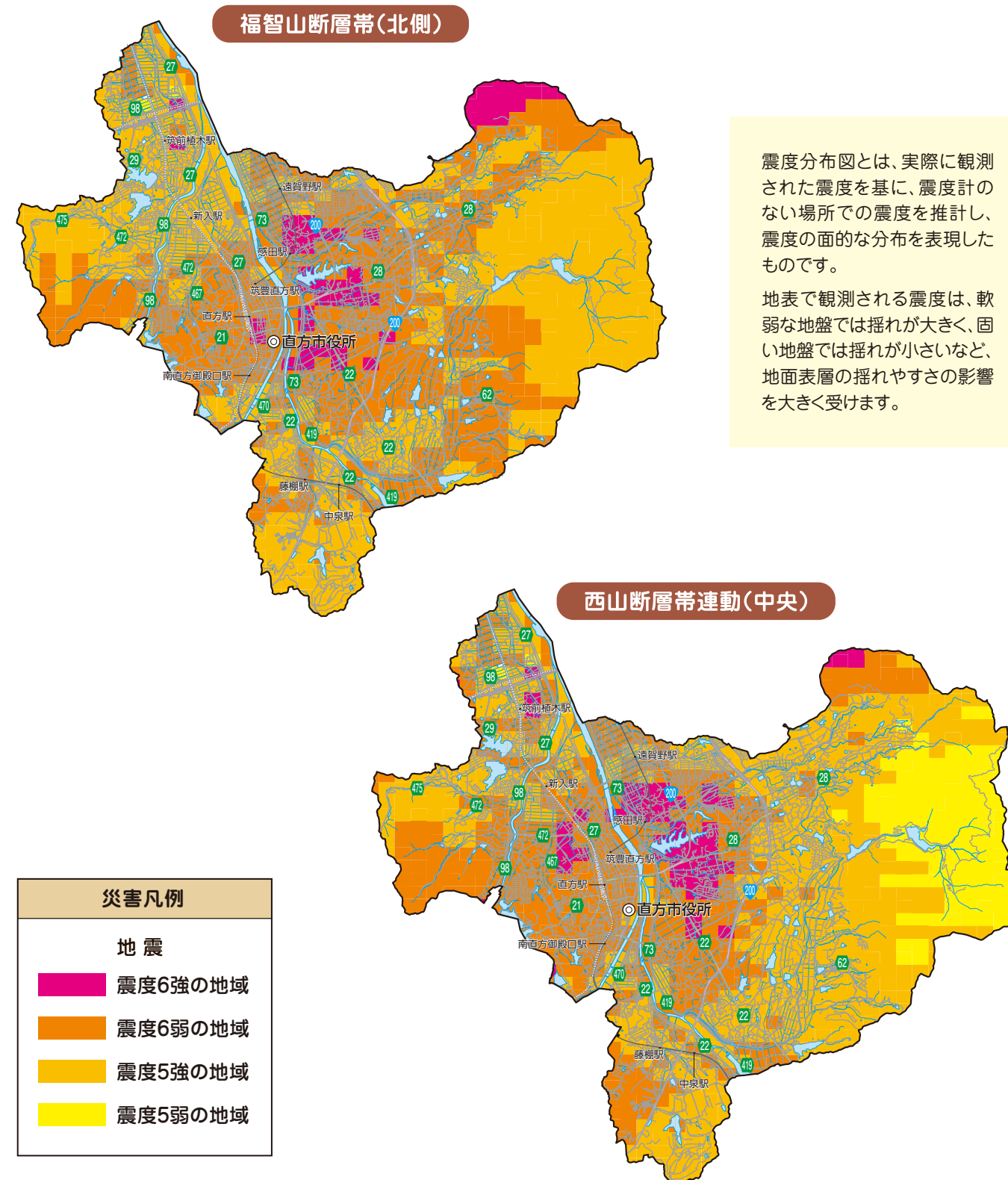
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオ等で情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

震度分布図

地震による犠牲者の多くは、地震発生直後の建物倒壊や家具の転倒によるものです。皆さん自身が「自分の身は、自分で守る」、「自分たちの地域は、自分たちで守る」と考え、地震に備えることが必要です。



震度分布図とは、実際に観測された震度を基に、震度計のない場所での震度を推計し、震度の面的な分布を表現したものです。

地表で観測される震度は、軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地面表層の揺れやすさの影響を大きく受けます。

災害凡例

地震

- 震度6強の地域
- 震度6弱の地域
- 震度5強の地域
- 震度5弱の地域

出典:「福岡県地震に関する防災アセスメント調査報告書 令和7年9月」

風水害・台風・高潮・雷・竜巻

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報とは?

大雨による災害が起こる
おそれのあるときに
注意を呼びかけて行う予報

大雨警報とは?

大雨による重大な災害が起こる
おそれのあるときに
警戒を呼びかけて行う予報

記録的短時間大雨情報とは?

土砂災害や浸水害、
中小河川の洪水害の発生に
つながるような猛烈な雨が降っている場合。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～30m/秒未満	30m/秒以上
風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていけないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。	

気象庁ホームページより抜粋、編集

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

(平均風速:m/秒)

気象庁ホームページより抜粋、編集

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。

発生への予測は比較的困難で、中小河川のはん濫、土砂災害などによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時の持ち出し品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。

- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意しておきましょう!

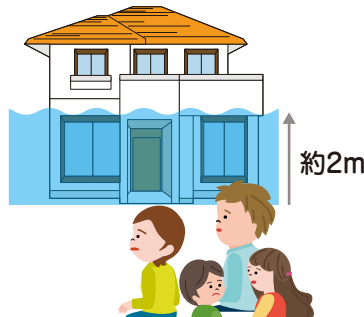


高潮

高潮は増水の速度が速く、満潮時刻はもちろん、満潮時刻の前後数時間は、潮位が短時間のうちに異常に上昇することがあります。台風が接近・上陸している時は十分に注意しましょう。

高潮って、どのような事に気をつけたらいいの?

高潮発生時は、安全な高台へ避難することが原則ですが、外に出ない方が安全な場合もあります。大事なものは、その場所の想定される浸水の深さなどを事前に調べ、どのような避難行動をとるか決めておくことです。(あらかじめ避難先を決めておく等)平屋建てやマンションの1階に住んでいる方は、浸水の高さが2mを超えると避難は必須でしょう。
生命に危険が及ぶかどうかは、この高潮の高さによって大きく異なります。
あなたの自宅は高潮の浸水想定区域に入っていますか?浸水深は何mですか?
命を守る最善の行動は事前の備えから始まっています。



高潮に関する情報入手

- 気象庁 気象警報・注意報
- 福岡管区気象台

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#5/34.5/135/&elem=all&contents=warning>
<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>

雷

落雷

まわりより高い所に落ちやすい!

▼
周囲が開けた場所は危険!

側撃雷

木の幹や枝から雷にうたれることも!

▼
木のそばは危険!

雷から身を守るには...



1 雷鳴が聞こえたらすぐ避難

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。屋外にいる人は安全な場所に避難しましょう。

2 建物の中や自動車へ避難

- 建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。
- 危険!** × 雨宿りで木の下に入るのは大変危険です。

3 木や電柱から4m以上離れる

- 側撃雷の恐れがあるので、木や電柱から4m以上離れてください。なるべく早く屋内の安全な場所に避難しましょう。
- 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

竜巻

建物の倒壊

屋根瓦が飛散

飛来物の衝突

他にも...

電柱・樹木の倒壊

テント等の飛散 など

強い竜巻では列車や自動車が転覆することもあります。

竜巻から身を守るには...



1 頑丈な建物の中へ避難

- 避難するときは屋根瓦などの飛来物に注意しましょう。
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう。

危険! × 車庫・物置・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険です。

2 屋内でも窓や壁から離れる

- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
- 窓、雨戸を閉め、カーテンを引きましょう。
- 頑丈な机の下に入り、頭と首を守りましょう。

火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

- 1. 早く知らせる**
 - 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
 - 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。
- 2. 早く消火する**
 - 出火から3分以内が消火できる限度。
 - 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

火元別初期消火のコツ

油なべ	電気製品	衣類
あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。
風呂場	ストーブ	カーテン・ふすま
風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。	消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。	カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

- 3. 早く逃げる**
 - 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
 - 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて空気を絶つ。

消火器の使い方

■ 粉末・強化液消火器の場合



■ 消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

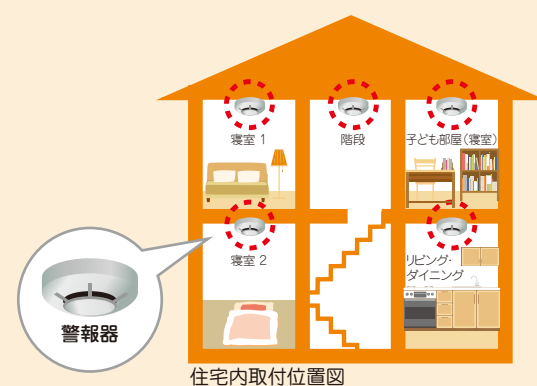
■ 火災予防が一番!! - 住宅用火災警報器の設置義務化 -

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や老人の居間など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もお勧めします。

住宅用火災警報器は、設置して約**10年**が交換の目安です!



警報器

住宅内取付位置図

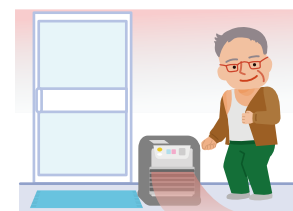
その他の事故にも注意!

溺水事故

寒い場所から熱いお湯へ…
ヒートショックにご用心

対策

- ①脱衣所や浴室を温める
- ②お風呂の温度は低めに設定
- ③食後すぐの入浴は控える
- ④入浴前にコップ1杯の水分補給を



熱中症

熱中症は屋外よりも屋内で発生することが多い傾向にあります。“屋内でも熱中症は発症する”ということを認識しましょう!

対策

- ①直射日光は避ける
- ②服装を工夫し、快適に過ごす
- ③こまめに水分と塩分の補給を
- ④体調を整える
- ⑤子どもや高齢者は要注意

もし熱中症になったら

- ①エアコンの効いている部屋に移動させる
- ②衣服を脱がせ、体からの熱の放散を促す
- ③意識があれば水分を与える
- ④冷たいタオルなどで全身を拭いたり、首や脇の下、ふとももの付け根などを冷却し体温を下げる

「意識が朦朧とする」、「自分で水分が摂れない」など、
症状が重いときは、迷わず119番で救急車を呼びましょう!

人が倒れていたら(心肺蘇生法)

1. 反応を確認する

傷病者に近づき、「大丈夫ですか」「もしもし」などと呼びかけながら傷病者の肩を軽くたたき、反応(意識)があるかないかを確認する。反応がなければ周囲に助けを求め、119番通報する。

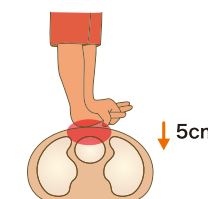
2. 呼吸を確認する

胸とおなかの動き(呼吸をするたびに上がったり下がったりする)を見る。
呼吸がない、普段通りの呼吸がない、普段通りの呼吸かどうか分からない場合は、すぐに胸骨圧迫を行う。



3. 胸骨圧迫

胸骨圧迫は胸の真ん中を、約5cm、1分間に100回~120回のリズムで絶え間なく圧迫する。



4. 胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ

新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、成人に対しては人工呼吸は行わず、胸骨圧迫だけを続ける。
人工呼吸ができる場合は「胸骨圧迫を30回、人工呼吸を2回」を1セットとして、この動作をAEDの到着もしくは救急隊員に引き継ぐまで繰り返す。



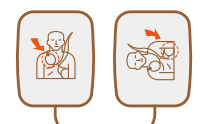
AEDの使い方

1. AEDの電源を入れる

種類によっては、ふたを開けると電源が入るものもある。電源を入れたら、以降は音声メッセージに従って操作する。

2. 電極パッドを貼り付ける

衣服を取り除き、肌に直接電極パッドを貼り付ける。



3. 心電図の解析

「体から離れてください」などの音声メッセージが流れ、心電図の解析が自動的に始まる。

4. 電気ショックと心肺蘇生の再開

電気ショックの指示が出たら、傷病者の体に誰も触れてないことを確認して電気ショックボタンを押す。電気ショックボタンを押したらすぐに心肺蘇生を再開する。
電気ショックが不要な場合は、心肺蘇生の手順を続ける。

心肺蘇生中止のタイミング

- ①普段通りの呼吸がもとどおり、呼びかけに反応したり、目的のある仕草が認められたとき。
- ②AEDの指示があったとき
- ③救急隊に引き継いだとき

呼吸がとまったり、普段通りでない呼吸に変化した場合はただちに心肺蘇生を再開します。

ペット防災

ペットの安全は、飼い主自ら守ることが基本となります。災害が起きた時、ペットを守ることができるのは飼い主だけです。そのためには、まず飼い主が無事でいることが重要です。飼い主が自分の安全を確保した上で、ペットの安全を守りましょう。

住まいの防災対策

- 家具や飼育ケージの固定、転倒防止、落下防止
- 屋外飼養の場合は、飼養場所の安全確認(外塀やガラス窓の近くを避ける)
- ケージ、クレートなどペットの避難場所(隠れ場所)の確保



ペット用の備蓄品と、持ち出す際の優先順位の例

優先順位1 動物の健康や命に係わるもの

- 療法食、薬
- ペットフード、水(少なくとも5日分[できれば7日分以上])
- キャリーバッグやケージ(猫や小動物には避難時に欠かせないアイテム)
- トイレ用品(猫の場合は使い慣れた猫砂、または使用済猫砂の一部)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ペットシート
- 排泄物の処理用具
- 食器

優先順位2 情報

- 飼い主の連絡先と、ペットに関する飼い主以外の緊急連絡先・預け先などの情報
- ペットの写真(印刷物とともに携帯電話などに画像を保存することも有効)
- ワクチン接種状況、既往症、投薬中の薬情報、検査結果、健康状態、かかりつけの動物病院などの情報

優先順位3 ペット用品

- タオル、ブラシ
- ウェットタオルや清浄綿(目や耳の掃除など多用途に利用可能)
- ビニール袋(排泄物の処理など他用途に利用可能)
- お気に入りのおもちゃなど匂いがついた用品
- 洗濯ネット(猫の場合は屋外診療・保護の際に有用)など
- ガムテープやマジック(ケージの補修、段ボールを用いたハウス作り、動物情報の掲示、など多用途に使用可能)



災害後にペットと過ごす注意点

自宅で生活する

自宅が安全なら、住み慣れた自宅にいる方がペットも安心です。ただし救援物資と情報は避難所に集まるので、必要に応じて取りに行くようにしましょう。人は無理でもペットが自宅で生活できる状況なら、避難所から世話に通う方法もあります。二次災害の危険があるときは、同行避難をしましょう。

車の中で生活する

周りに気を使わず過ごせますが、狭い空間では、エコノミークラス症候群にならないよう定期的に車外に出て動いたり、水分をこまめに取りましょう。また、車内温度は思ったよりも上昇するため、人もペットも熱中症の危険があります。温度や湿度を確認するなど注意が必要です。

施設に預ける

避難所に入れない場合や、飼い主の事情、ペットの健康状態などにより、自治体の収容施設、動物病院、動物保護団体などで預かってもらう場合があります。家の再建まで長期に預けるだけでなく、家の片づけや仕事のために数日または数時間預けることもあります。預ける前に条件や期間、費用等について必ず確認し、誓約書なども交わしておきましょう。

住まいが被害を受けたとき最初にとすること

災害で住まいが被害を受けたときは、あまりのショックに、何から手を付けたらいいかわからなくなるかもしれません。被災者の方々が一日も早く日常生活を取り戻せるように、行政も様々な支援に動き出します。それらの支援も受けながら、一歩ずつ再建を進めていきましょう。その支援を受けるためにも、被害状況を写真で撮るようにしましょう。

家の被害状況を写真で記録しましょう

片付けや修理の前に、家の被害状況を写真に撮って保存しておきましょう。

市から証明書を取得して支援を受ける際や、保険会社に損害保険を請求する際などに、たいへん役に立ちます。

ポイントは、家の外と中の写真を撮ることです。

家の外の写真の撮り方

- カメラ・スマホなどでなるべく4方向から撮影しましょう。
- 浸水した場合は、浸水の深さがわかるように撮影しましょう。

※メジャーなどをあてて「引き(全体がわかるように離れて撮影)」と「寄り(細部がわかるように接近して撮影)」の写真の撮ると、被害の大きさが良くわかります。

家の中の写真の撮り方

- 被災した部屋ごとの全景写真を撮影しましょう。
- 被害箇所の「寄り」の写真を撮影しましょう。

<想定される撮影箇所>

内壁、床、窓、出入口、サッシ、ふすま、障子、システムキッチン、洗面台、便器、ユニットバスなど

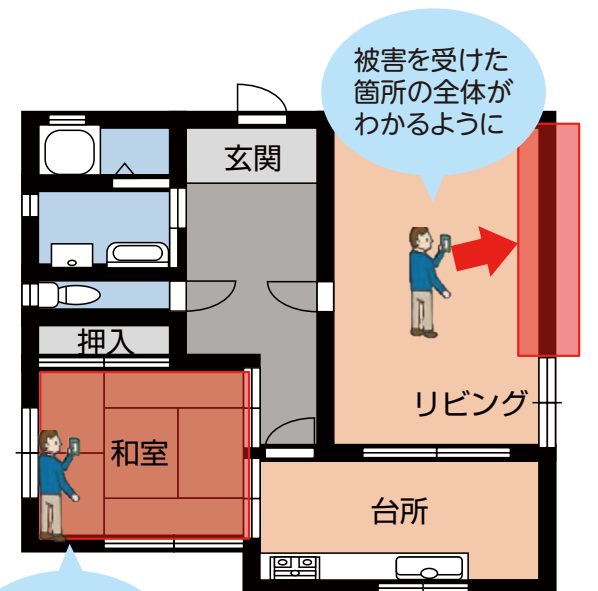
<イメージ図>



浸水の深さがわかるように

カメラ・スマホなどで4方向から撮影しましょう

★被害を受けた部屋・箇所は全て撮影しましょう。

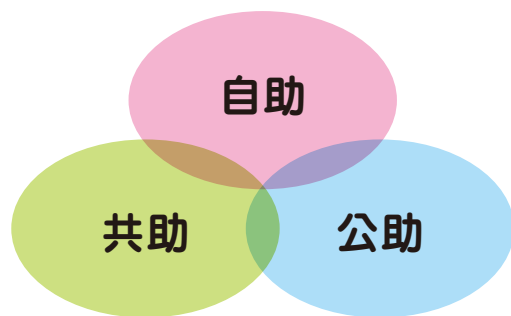


被害を受けた箇所の全体がわかるように

被災した部屋ごとに全景を撮影しましょう

日頃の備え

自助・共助・公助



災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」が不可欠です。
 「自助」は、一人ひとりが自ら取り組むこと
 「共助」は、地域や身近にいる人どうしが一緒に取り組むこと
 「公助」は、国や地方公共団体などが取り組むこと

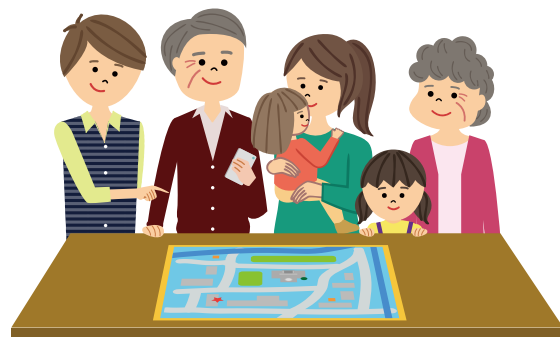
3つの連携が円滑なほど、災害の被害は軽減できます。

家族で防災会議

まずあなたが無事でいることが大切

災害時は「自分たちの命は自分たちで守る」(自助)という意識がとても重要です。

災害が発生したとき、私たち一人ひとりが無事でなければ、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」は成り立ちません。また、災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときにあわてず行動できるよう、家族で普段から話し合ひましょう。



話し合う項目

- ☐ **自宅周辺の危険箇所の確認** ▶P37～54 ハザードマップ
- ☐ **避難場所と避難経路の確認** ▶P37～54 ハザードマップ
- ☐ **災害が起こったときの身の守り方** ▶P23 防災対策 & チェック／家の中の安全対策 (家の中ではどこが一番安全か)
- ☐ **非常用持ち出し品** ▶P25～26 非常時持ち出し品・備蓄品の準備&チェック

大災害が発生すると、水、電気、ガス、通信などのライフラインが停止する可能性があります。復旧までの間、自宅で生活できるように、水や食料、生活用品を備蓄しておきましょう。自宅が被災したり、自宅周辺一帯が危険と判断された場合は、安全な場所に避難しなければなりません。急いで自宅を出なければならないこともありますので、非常持ち出し品は前もってリュックに詰めるなどの準備をしておきましょう。



- ☐ **家族間の連絡方法と、最終的に落ち合う場所** ▶裏表紙 わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

※乳幼児・高齢者・病人・妊婦のいる家庭はその避難方法も話し合ひましょう。

内閣府ホームページ『みんなで減災』より抜粋、編集

自主防災組織で地域を守る

自主防災組織とは、地域の皆さんが災害に対して協力し合う組織です。自主防災組織を結成し、地域防災活動を行うことで災害に強いまちづくりを目指しましょう。

■ 平常時の活動

作ろう、参加しよう、育てよう！

大きな災害では、行政や関係機関の対応に時間がかかることがあります。個人や家族の力だけでは限界があります。日頃の付き合いがある隣組や自治会などで、互いに助け合い、協力し合える体制づくりをしましょう。



地域を点検しよう！

地域の皆さんで事前に確認しましょう。

- 消火栓の上や防火水槽の近くに、違法駐車や放置自転車などの障害物はありませんか？
- 避難所を皆さんが知っていますか？
- 避難経路に危険な場所はありませんか？



みんなで学ぼう！

防災に関心を持ち、防災に関する知識を身につけましょう。災害が起こったときに予想される事態や対応について話し合ひましょう。



訓練をしよう！

いざというときに正しい行動が取れるように、災害の発生を具体的に想定した防災訓練を定期的に開催しましょう。

- 消火器の使い方
- 心肺蘇生法(心臓マッサージの方法、AEDの使用方法)



■ 災害時の活動

- **初期消火活動** 火が天井にまわるまでには消火器などを用いた初期消火が可能。
- **避難誘導** 高齢者や障がいがある方々などへの避難支援。
- **救出・救助** 被災者の救出。救護所への搬送。
- **情報の収集・伝達** 災害に関する正しい情報の収集とその伝達。
- **避難所の管理・運営** 水や食料などの配給、炊き出しなどの給食・給水活動。



災害時特に配慮を要する方々への支援

障がいのある方など、災害時特に配慮を要する方々は、災害発生時の対応に地域の皆さんの支援が必要になります。地域で協力し合ひながら、安否確認、避難所への移動、避難生活の支援をしましょう。

高齢者や病気の方

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。みなさんと協力して避難しましょう。



体の不自由な方

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で！昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。



耳の不自由な方

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。



目の不自由な方

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらいゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。



防災対策&チェック

突然の災害に備えて、今、自分たちでできることを見回してみましょう。日頃から対策ができているか、☒チェックしましょう。

家の中の安全対策

☐ **Check Point** **家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる**
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



☐ **Check Point** **安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない**
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

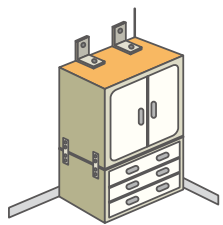
☐ **Check Point** **寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない**
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

☐ **Check Point** **家具の転倒を防ぐ**
家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を完全に。

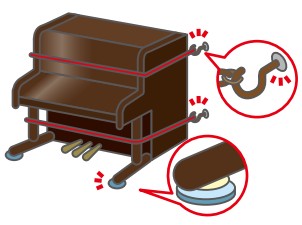
☐ **Check Point** **急な停電時の対応策を知っておく**
ブレーカーの位置を知り、携帯電話のライトや懐中電灯を活用できるよう準備しておく。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

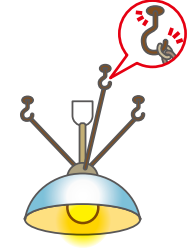
☐ **Check Point** **タンス・本棚**
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



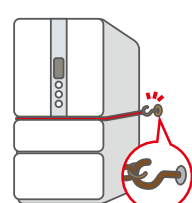
☐ **Check Point** **ピアノ**
本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



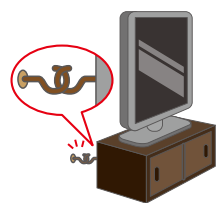
☐ **Check Point** **照明**
チェーンと金具を使って数が所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



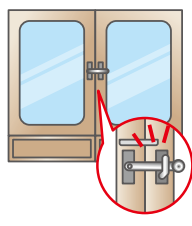
☐ **Check Point** **冷蔵庫**
扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



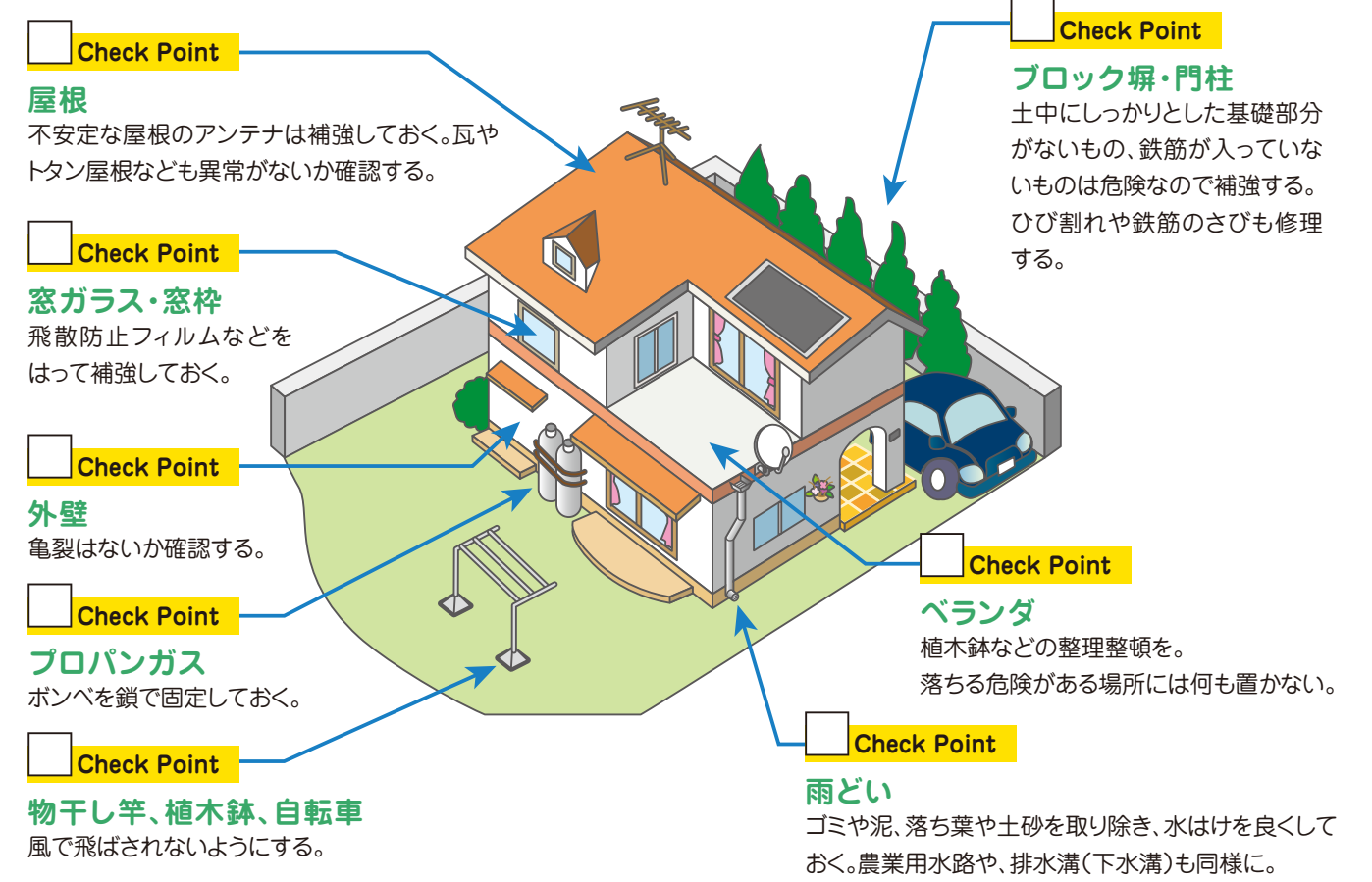
☐ **Check Point** **テレビ**
できるだけ低い位置に固定して置く（家具の上は避ける）。



☐ **Check Point** **食器棚**
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



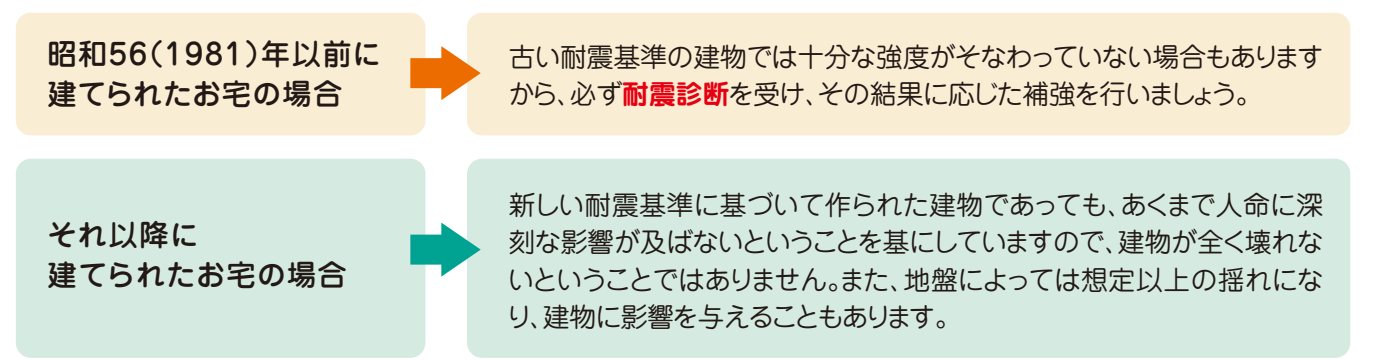
家の周囲の安全対策



※電気の引込線のたるみや破損があったら、電力会社に連絡しましょう。

あなたのお宅は地震に耐えられますか？

あなたのお宅は、何年に建てられましたか？・・・昭和56年(1981)年以降が新耐震基準
昭和56年(1981)年に、住宅の建物の強さを定める基準が大きく変わりました。この年以降に建てられているかどうか、自分の家の強さを知る一つの目安となります。



年月の経過とともに住宅も変化します。**点検・整備**をこまめに行うことや、万が一の際にも補修や再建の助けとなる**地震保険**などの経済的な**手だて**についても、家族で話し合っておきましょう。

非常時持ち出し品・備蓄品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。
日頃から準備できているか、☒チェックしましょう。

非常時持ち出し品（例）

それぞれのご家庭の状況に応じて必要なものを記入するなどして、活用してください。

携帯ラジオ

☐ ラジオ
☐ 電池(多めに用意)

救急医療品

☐ 常備薬
☐ 絆創膏
☐ 傷薬
☐ 包帯
☐ 風邪薬
☐ 胃腸薬
☐ 鎮痛剤

貴重品

☐ 現金
☐ 預金通帳
☐ 印鑑
☐ 免許証
☐ 健康保険証
☐ 権利証書

懐中電灯

☐ 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
☐ 電池(多めに用意)

非常用食品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など

☐ 非常用食品
☐ 缶切り
☐ 紙皿
☐ 水筒
☐ 缶詰
☐ 栓抜き
☐ 紙コップ
☐ ミネラルウォーター

その他

☐ 衣類・防寒着(下着・上着など)
☐ 生理用品
☐ 離乳食
☐ ウェットティッシュ
☐ ヘルメット
☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
☐ 防災ブック(本書)
☐ マスク
☐ 消毒液
☐ タオル
☐ 粉ミルク
☐ 紙おむつ
☐ カップ
☐ ライター
☐ 携帯電話の充電器
☐ ホイッスル

非常時用備蓄品（例）

災害復旧までの数日間(最低3日)を自活するための備蓄品

飲料水

☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
☐ 貯水した防災タンクなど

非常用食品

☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
☐ 缶詰・レトルト食品
☐ 梅干し・調味料など
☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料

☐ 卓上コンロ
☐ ガスボンベ


その他

☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
☐ バケツ・各種アウトドア用品など
☐ ランタン(電池)

定期点検!

非常時持ち出し品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持ち出し用品の不備を定期的に点検しましょう。



避難生活が長引くときに便利なもの

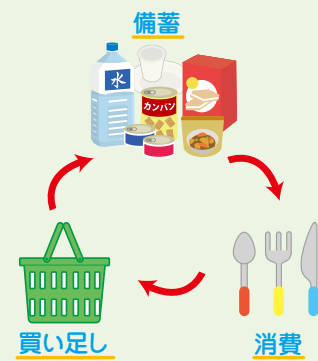
<input type="checkbox"/> 携帯トイレ	<input type="checkbox"/> 裁縫セット	<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 筆記用具(マジックなど)
<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> ガムテープ	<input type="checkbox"/> さらし	<input type="checkbox"/> スコップ
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

など

ローリングストックをはじめよう!

ローリングストックとは、使いながら備蓄する事

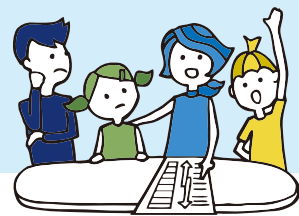
普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、日常で使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食材を家に備蓄しておく方法を「ローリングストック」と言います。
日常の食事で消費しながら備蓄するのがポイントです。
備蓄品の鮮度を保ち、いざというときにも日常の食事に近い食生活を送ることができます。



マイ・タイムラインの作成

マイ・タイムラインとは？

「マイ・タイムライン」は、台風の接近等によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、取りまとめる行動計画表です。急な判断が迫られる洪水発生時に、自分自身の行動のチェックリスト、また判断のサポートツールとして役立ちます。自分の家族構成や生活環境に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握してマイ・タイムラインを作成し、「自分の逃げ方」を手に入れましょう。



マイ・タイムラインを作成したあとは…

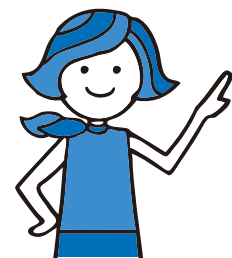
今回検討したマイ・タイムラインは基礎的なもので、例えば、洪水が発生する時間帯によってはさらに早めの避難が必要になるなど、実際の洪水時を想定した応用動作が想定されます。今後、家族や地域で話し合うなどし、防災行動を追加していくとよいでしょう。またマイ・タイムラインは、一度作ったらおしまいというものではありません。家族が増えたとき、職場や学校が変わったときなど、自分自身の環境の変化に応じて、あらためて見直し、必要な防災行動を整理していきましょう。



マイ・タイムライン使用時の心得

洪水は自然現象であり、マイ・タイムラインがあれば常に安全ということではなく、マイ・タイムラインで想定したとおりに進行するとは限りません。マイ・タイムラインを作成すると、自分と家族がとるべき防災行動の「いつ」「誰が」「何をする」が明確になりますが、注意点もあります。

マイ・タイムライン上の時間は、時計のように進むわけではありません。例えば、タイムライン上で氾濫発生3時間前となっていて、水防団(消防団)の水防活動によって進行を遅らせることができ、結果として3時間経っても氾濫に至らない場合も想定されます。そのため、実際の洪水においてマイ・タイムラインを使用する際には、次の心得をふまえて行動してください。



- 心得1 あくまで行動の目安として認識する。
- 心得2 気象警報や避難情報等をこまめに収集・確認する。
- 心得3 収集・確認した情報をもとに、マイ・タイムラインを参考にして、臨機応変に防災行動の実行を判断する。

洪水はマイ・タイムラインで想定したとおりに進行するとは限りません！

洪水によって異なります

台風の進み方
雨の降り方
川の水位の上がり方
氾濫した際の浸水深
氾濫した際の浸水継続時間

洪水に応じて臨機応変に発表・発令されます

気象警報の発表
洪水予報の発表
避難情報の発令



洪水に応じて臨機応変に対応しましょう

みなさんの事前のそなえが大切です。



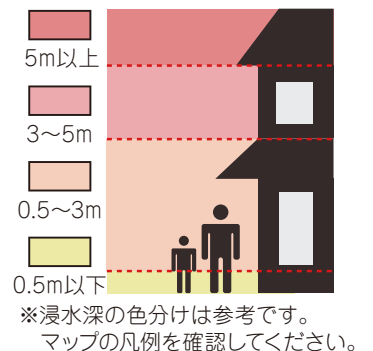
出典：国土交通省「小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール ～逃げキッド～」を加工・編集し作成



マイ・タイムライン作成のためのチェックシート

洪水ハザードマップや浸水想定区域図等でチェック

- あなたの住んでいる場所の浸水深は？
_____ m
- あなたの住んでいる場所は家屋倒壊等氾濫想定区域ですか？
☐ はい (☐ 氾濫流 ☐ 河岸侵食) ☐ いいえ
- あなたの住んでいる場所は土砂災害の危険があるところですか？
☐ はい (☐ 土砂災害特別警戒区域 ☐ 土砂災害警戒区域) ☐ いいえ



浸水ナビ



ハザードマップ
ポータルサイト



※自治体が発行するハザードマップで確認できる場合もあります



洪水ハザードマップや
浸水想定区域図等は
ここからチェック！

家庭の状況チェック

- 車 ☐ 無 ☐ 有 () 台
- ペット ☐ 無 ☐ 有 ()
- 持病薬 ☐ 無 ☐ 有 ()
- 避難に支援が必要な人(高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など)
☐ 無 ☐ 有 ()

避難先のチェック

- あなたが避難する場所
- ☐ 洪水ハザードマップに記載されている避難所
{ (移動手段: 移動時間: 約 分)}
- ☐ 親戚・知人の家
{ (移動手段: 移動時間: 約 分)}
- ☐ その他(近くの浸水しない場所(浸水深以上の階のある堅牢な建物など))
{ (移動手段: 移動時間: 約 分)}

避難先は複数
考えておこう！



マイ・タイムラインの作成

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!!

確認してみよう!

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまで

地震はいきなりやってくるけど、
洪水はだんだんやってくるよ!



5~3日前

1

台風が発生

天気予報で台風がきたって
言っているよ。
まだ雨や風は強くないね。



1日前

2

台風が近づいて、
雨や風がだんだん強くなる

雨や風が強くなると、
お出かけは大変だね。



半日前

3

雨が集まって、川の水が
だんだん増える

自分がいるところで降って
いなくても、上流で雨が
降れば川の水は増えてくるよ。



7時間前

4

激しい雨で、川の水がどんどん
増えて、河川敷にも水が流れる

このまま増えると、
川の水があふれるかも。



5時間前
3時間前

5

川の水がいっぱい
あふれそう

もうギリギリ。川の水が
あふれる前に、安全な
ところへ逃げなきゃ!



0時間

6

川の水が氾濫

川の水が一気に広がって、
街じゅうが水びたし。
こうなると動けないぞ。



『マイ・タイムライン』をつくってみよう!!

「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの
そなえをいつから行動するか書いてみよう!

みんなが考えた「台風が発生」
してから「川の水が氾濫」
するまでの備えが
『マイ・タイムライン』だよ!



家 マイ・タイムライン

作成年月 年 月

そなえまでの おおよその 時間	行政から発信される情報 黒:気象・水象情報 青:河川管理者 緑:直方市	「台風が発生」 してから「川の水が 氾濫」するまで	主なそなえ	そなえの(例)
5~3 日前	●台風予報 ●台風に関する福岡県、 福岡県気象情報 ◇早期注意情報 (警戒レベル1)	台風が発生 警戒レベル1 自分がいるところで 降っていないくても、 上流で雨が降れば 川の水は増えてくるよ。	オリジナルの行動も 書き足そう!	買い物は、雨風が強くなる 前にすませておこう。 ●今後の台風の動きを 調べ始める ●1週間分の薬を病院に受け取りに行く ●避難する時に持っていく物を準備する ●家の周りに風で飛ばされる ようなものはないか確認 ●テレビ、インターネット、メール等で 雨や川の様子に注意 ●家族と連絡を取りあう
2日前	◇大雨注意報、 洪水注意報、 高潮注意報 (警戒レベル2) ●台風に関する 今後の見通し	台風が近づいて、 雨や風がだんだん 強くなる 警戒レベル2 雨や風が強くなると お出かけは大変!		
1日前				
半日前	水防団待機水位到達 氾濫注意水位到達 →洪水予報 (氾濫注意情報)発表 →避難準備情報 (警戒レベル3)を発令 必要な情報は自分で 調べる必要がある。	雨が集まって、川の 水がだんだん増える 激しい雨で、川の水が どんどん増えて、 河川敷にも水が流れる 警戒レベル3相当		●住んでいる所と上流の 雨量を調べ始める ●ハザードマップで避難場所、 避難手段を確認 ●携帯・メール等で 避難準備情報を受信 ●川の水位を調べ始める 避難に時間がかか るおじいちゃん、おばあ ちゃんは早めに避難しよう。 ●携帯電話の充電 ●避難しやすい服装に 着替える ●市内の高台への避難の開始を判断 ●携帯・メール等で避難指示等を受信
5時間前	避難判断水位到達 →洪水予報 (氾濫警戒情報)発表 →避難指示 (警戒レベル4)を発令	川の水がいっぱい あふれそう 警戒レベル4相当		●川の水位をインターネットで確認 ●安全な所へ移動を始める
3時間前	氾濫危険水位到達 →洪水予報 (氾濫危険情報)発表 →緊急速報メール (河川氾濫のおそれ がある情報)	川の水があふれる前に、 安全なところへ逃げなきゃ! 警戒レベル5相当		●川の水位をインターネットで確認 ●市内の高台への避難を完了 ●携帯メールで緊急速報メールを受信
0時間	氾濫が発生 →洪水予報 (氾濫発生情報)発表 →緊急速報メール (氾濫が発生した情報) →災害発生情報 (警戒レベル5)を発令	川の水が氾濫 川の水が一気に 広がって、街じゅうが 水びたし。 こうなると動けないぞ!		●テレビで洪水予報の確認 ●携帯メールで緊急速報メールを受信

気象庁が発表する大雨注意報等の発表時間は、イメージで記載しています。
避難指示等のタイミングは状況によって異なります。市の発信情報に注意してください。

防災情報の収集

特別警報をご存知ですか？

気象庁は、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがある時に、警報を発表して警戒を呼びかけます。
これに加え、警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	
地震（地震動）	震度6弱以上または長周期地震動階級4の大きさの地震動が予想される場合（緊急地震速報（震度6弱以上または長周期地震動階級4）を特別警報に位置づける）	

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。
気象庁ホームページより抜粋、編集

特別警報が
発表されたら

- お住まいの地域は、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。
- この数十年間災害の経験が無い地域でも、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっていますので、油断しないでください。

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

最新の災害情報を知りましょう

災害時には、自分で積極的に情報収集することが大切です。防災情報をテレビ、インターネット、メールなどで確認してください。

■ テレビで調べる

まずテレビをつけて、何が起こったのか、現在の状況や今後の見通しなど最新の情報を確認してください。

テレビのdボタン（データ放送）

データ放送に対応しているテレビでは、dボタンを押すことで、雨の情報や河川の情報（NHK総合）を確認することができます。また、KBC（九州朝日放送、1チャンネル）の「dボタン広報誌」では、地域の開設中の避難所情報を確認することができます。



■ 直方市災害時情報共有プラットフォーム

災害時に携帯電話やパソコンから避難所の開設状況や混雑状況、市内の通行止めなどの災害情報を入手できます。



■ 直方市公式ライン（LINE）

平常時は「近くの避難所」の検索ツールとして、災害時は避難情報を受信ツールとして活用できます。

<https://lin.ee/9fg4NvE>



■ 防災行政無線

災害情報を屋外スピーカーや戸別受信機などでお知らせします。
屋外スピーカーの音声は、家の中や豪雨時には聞き取りにくい場合があります。聞き取れなかった場合は、テレビや市のホームページなどで最新の情報を確認しましょう。

■ 緊急速報メール

直方市内のエリアにある携帯電話に対して一斉配信するサービスを利用して緊急災害情報を提供しています。
機種により受信できない場合や受信設定が必要になる場合がありますので、詳しくは各携帯電話会社にお問い合わせください。

■ 直方市ホームページ

<https://www.city.nogata.fukuoka.jp/>



■ 直方市ため池ハザードマップ

https://www.city.nogata.fukuoka.jp/sangyo/_1228/_6394.html



インターネットで調べる

▼ 福岡県総合防災情報

http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis_top/index.html



▼ 国土交通省川の防災情報

<https://www.river.go.jp/>



▼ 九州電力送配電（停電情報）

https://www.kyuden.co.jp/td_teiden/kyushu.html



▼ 浸水キキクル 大雨警報（浸水害）の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:inund/>



▼ 洪水キキクル 洪水警報の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:flood/>



▼ 土砂キキクル 大雨警報（土砂災害）の危険度分布

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/>



ふくおか防災ナビ・まもるくん（スマートフォンアプリ）

福岡県による防災情報配信アプリです。
気象や避難情報等の情報収集にお役立てください。



◀ Appstore



◀ Google Play

詳しくは福岡県総務部防災危機管理局のホームページをご覧ください。【お問い合わせ先】福岡県防災企画課 TEL:092-643-3114

避難所一覧

市内の避難場所は、直方市水防計画書で、各学校の体育館や公民館など市内全域で48ヵ所が指定されています。

指定避難所

- 避難所の開設は災害対策本部が決定します。必ず災害対策本部に確認してから避難してください。
 - 避難所にある電話は避難所運営のための大切なもので、原則として個人的な連絡用ではありません。避難所に関する連絡は災害対策本部にご連絡ください。
- ➡災害対策本部 ☎ 25-2002

施設名称		対応災害				所在地
		水害	土砂災害	地震	その他	
1	直方南小学校	—	○	○	○	新町3丁目3番55号
2	遠賀川水辺館	○	○	○	○	溝堀1丁目1番1号
3	直方自動車学校	○	○	—	○	大字赤地1番地
4	直方西小学校	○	—	○	○	大字山部666番地
5	鞍手高等学校(体育館、武道場、鈴懸ホール)	○	—	○	○	大字山部810番地7
6	直方市民体育センター	—	○	○	○	大字山部599番地2
7	直方市体育館	○	—	○	○	大字直方674番地25
8	直方北小学校	—	○	○	○	日吉町7番1号
9	直方第三中学校	—	○	○	○	大字知古960番地
10	直方市中央公民館	▲	○	○	○	津田町7番20号
11	新入小学校	—	—	○	○	大字上新入2081番地
12	真照寺	○	○	—	○	大字下新入1672番地1
13	植木小学校	—	○	○	○	大字植木3207番地
14	植木中学校	○	○	○	○	大字植木261番地2
15	代行寺	○	○	—	○	大字植木749番地
16	願照寺	○	○	—	○	大字植木2298番地
17	中泉小学校	○	○	○	○	大字中泉848番地3
18	下境第三集会所	○	○	—	○	大字下境3910番地28
19	中央隣保館	—	○	○	○	大字下境2014番地1
20	下境小学校	○	—	○	○	大字下境1820番地
21	直方第一中学校	○	—	○	○	大字下境1892番地1
22	下境三区公民館	—	○	○	○	大字下境3910番地41
23	下境四区公民館	—	○	—	○	大字下境4123番地6
24	永満寺公民館	—	○	○	○	大字永満寺2088番地
25	直方特別支援学校(体育館)	○	○	○	○	大字下境410番地2
26	福地小学校	—	○	○	○	大字永満寺2427番地
27	上頓野小学校	○	○	○	○	大字上頓野2510番地
28	上頓野校区自治公民館	○	—	—	○	大字上頓野2689番地6
29	頓野公民館	—	○	—	○	大字頓野1685番地4

施設名称		対応災害				所在地
		水害	土砂災害	地震	その他	
30	感田小学校	○	—	○	○	大字感田1160番地
31	感田第一集会所	—	○	—	○	大字感田1472番地4
32	直方東小学校	○	○	○	○	大字頓野2095番地1
33	直方高等学校(講堂)	—	○	○	○	大字頓野3459番地2
34	直方高等学校(武道場)	○	○	○	○	大字頓野3459番地2
35	直方第二中学校	○	—	○	○	大字頓野4082番地
36	筑豊高等学校(体育館)	○	○	○	○	大字頓野4019番地2
37	光福寺	○	○	—	○	大字下境1638番地
38	清光寺	○	○	—	○	大字中泉91番地
39	直方歳時館	○	○	○	○	新町1丁目1番18号
40	ユメニティのおがた	▲	○	○	○	大字山部364番地4
41	直鞍農業協同組合	—	○	○	○	知古2丁目3番4号
42	大和青藍高等学校(研心館なでしこホール)	—	○	○	○	日吉町10番21号
43	新中原公民館	○	○	○	○	大字頓野1193番地4
44	天理教筑紫大教会	○	○	○	○	大字頓野3090番地
45	特別養護老人ホーム すみれそうのおがた	○	○	○	○	大字上境2027番地1
46	直方市火葬場 天翔館	○	○	○	○	大字上新入2430番地14
47	直方市汚泥再生処理センター	▲	○	○	○	大字知古189番地1
48	明幸学園	○	○	○	○	大字頓野368番地1

車中泊避難所

施設名称		対応災害				所在地
		水害	土砂災害	地震	その他	
1	福智山ろく花公園駐車場	○	—	○	○	大字永満寺1498番地
2	東校区ふれあいアンビシャス広場	○	○	○	○	大字頓野2642番地
3	直方中央公園駐車場	○	○	○	○	大字頓野1502番地
4	旧直方ろう学校(グラウンド)	○	○	○	○	大字感田346番地1
5	直鞍産業振興センターADOX福岡本館	○	○	○	○	大字植木1245番地2
6	イオンモール直方施設内駐車場	○	○	○	○	湯野原2丁目1番1号
7	ダイナム福岡直方店駐車場	○	○	○	○	大字上新入1862番地1
8	株式会社フタバ九州施設内駐車場	○	○	○	○	大字中泉1181番地6

指定避難所及び車中泊避難所は災害時のみ状況に応じて開設いたしますので、平常時はご利用いただけません。

凡例	○：避難所として開設可 ▲：垂直避難であれば避難所として開設可 水害の一：浸水想定区域内の施設であるため避難所として開設不可 土砂の一：施設全体が土砂災害警戒区域であるため避難所として開設不可 地震の一：新耐震基準以前に建築された施設等のため避難所として開設不可
----	--

ハザードマップの見方

確認したいポイント

- 自宅等のある場所で指定されている洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域など
 - 避難場所の位置
 - 自宅から避難場所へ向かう経路
- ※災害時に危険と思われる箇所(河川より低い道路、防護柵のない水路など)を自分の目で見て確認しておくことも大事です。



洪水浸水想定区域：想定最大規模

水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示したものです。
遠賀川：日の出橋上流域の12時間総雨量592mm

洪水浸水想定区域

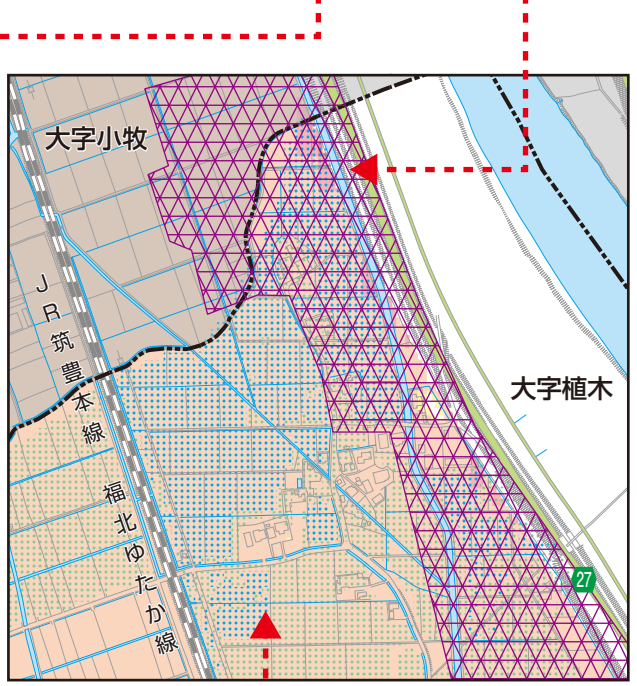
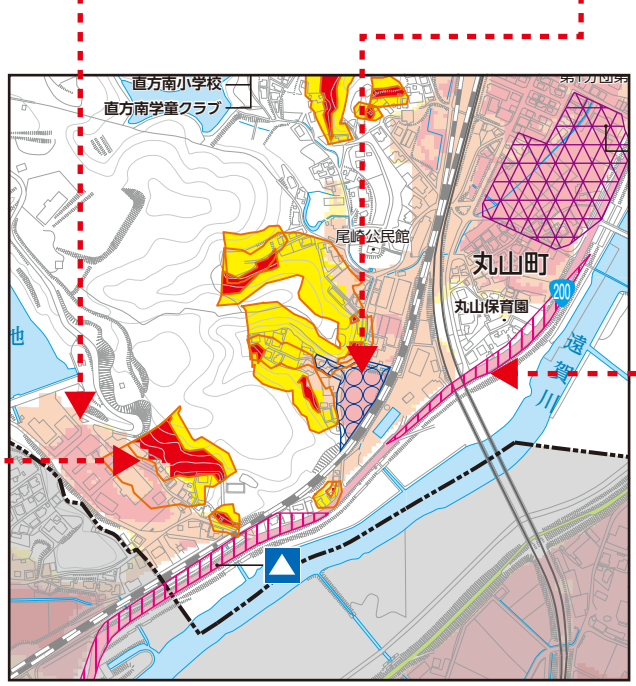
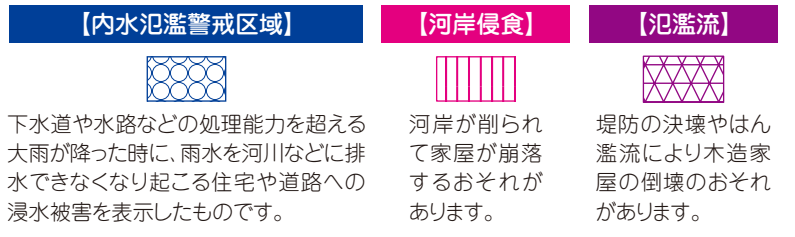
河川がはん濫した場合の「浸水する範囲(浸水域)」と「浸水の深さ(浸水深)」を示しています。



家屋倒壊等はん濫想定区域

家屋の倒壊をもたらすような河岸侵食やはん濫流が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早めの立退き避難が必要です。

これらの区域では早めの立退き避難を徹底してください

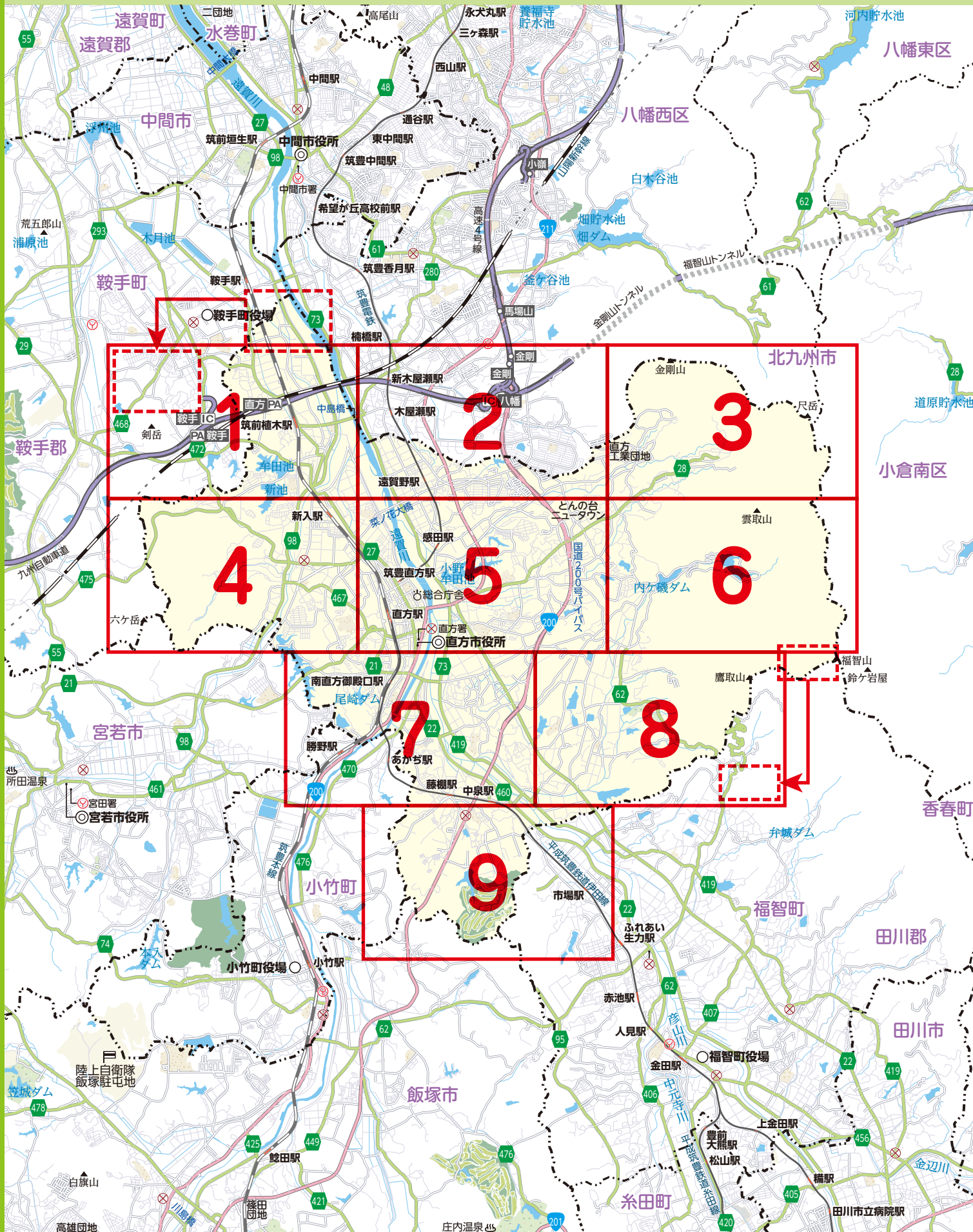


土砂災害警戒区域・特別警戒区域

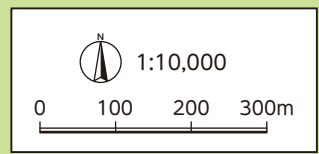
土砂災害の危険がある場所			
急傾斜地	土石流	土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)	土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生ずる恐れがあると認められる区域です。
特別警戒区域	特別警戒区域	土砂災害警戒区域 (イエローゾーン) のうち、土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ住民の生命又は身体に著しい危害が生ずる恐れがあると認められる区域です。	
警戒区域	警戒区域	土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)	

高潮浸水想定	
浸水深区分	0.5m 以上～3m 未満
	0.5m 未満

全体図

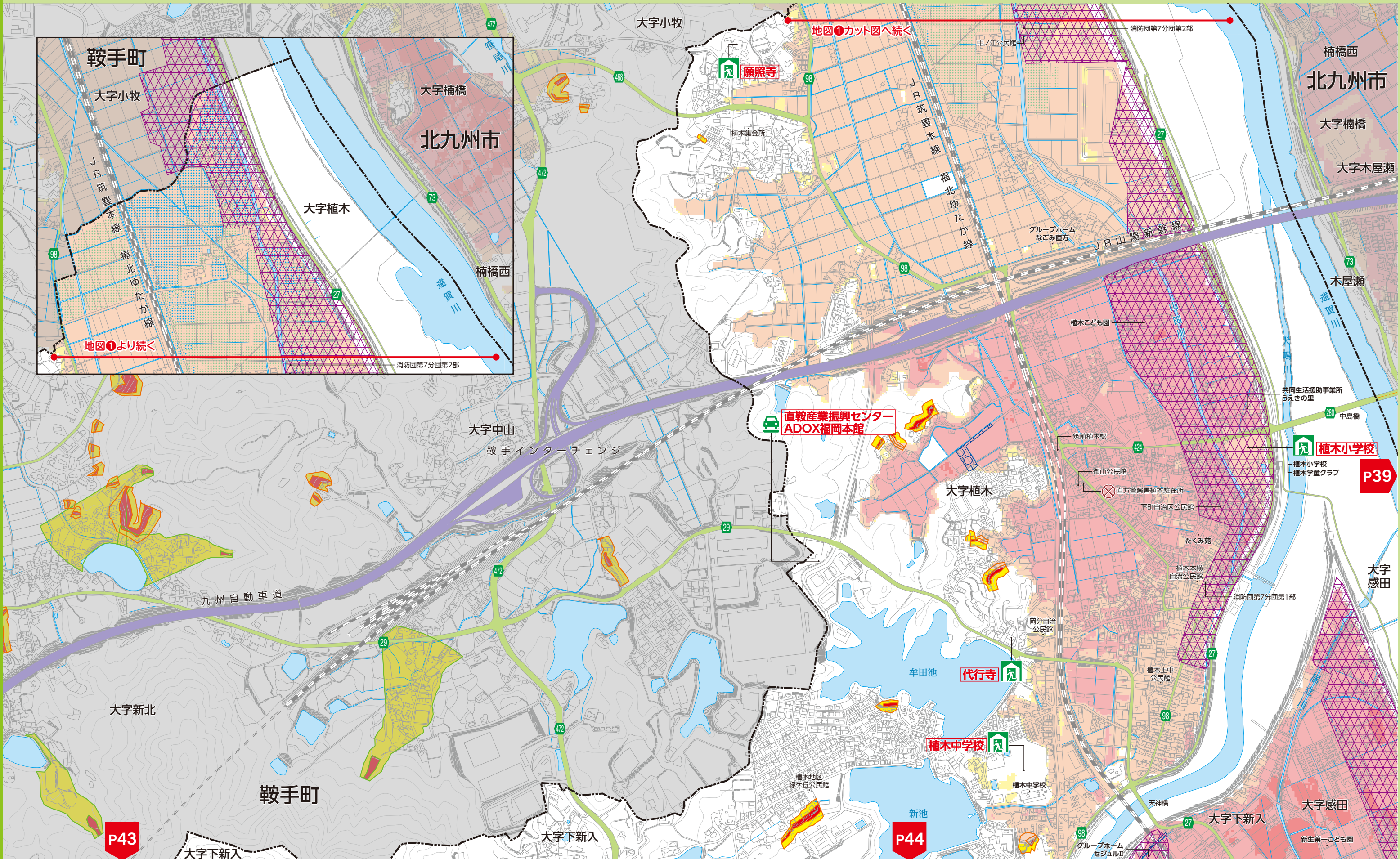


地図①

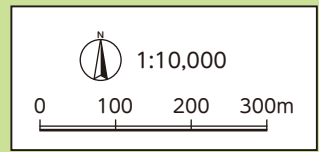


凡例		◎ 市役所		
		Ⓜ 消防署		
		Ⓧ 警察署・駐在所		

土砂災害の危険がある場所		急傾斜地		土石流		高潮浸水想定	浸水深区分	0.5m 以上～3m 未満	洪水浸水想定	浸水深区分	10m 以上～20m 未満			
							0.5m 未満				5m 以上～10m 未満			

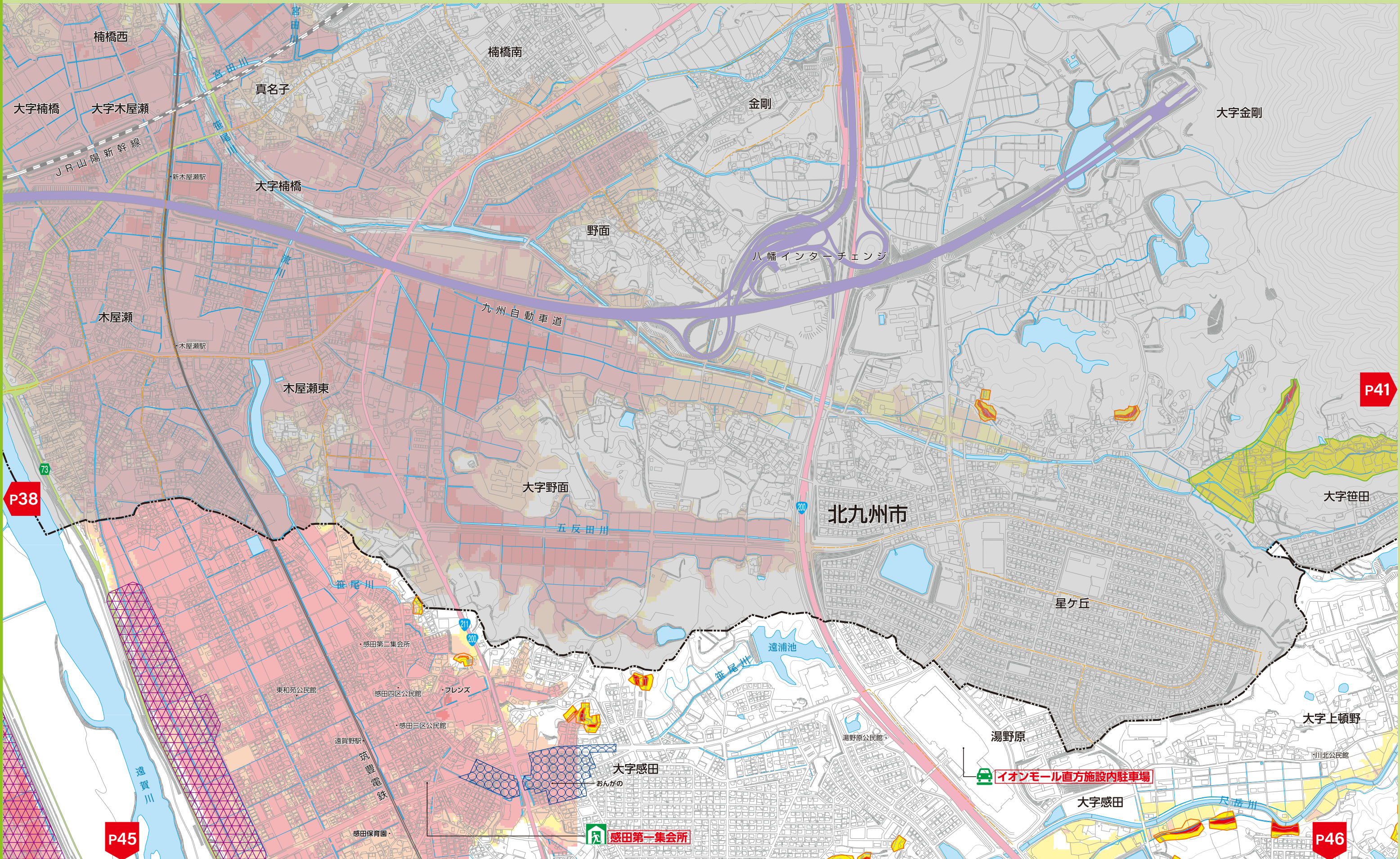


地図②

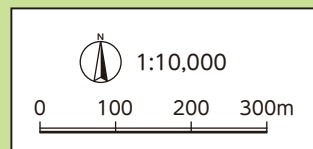


凡例		◎ 市役所		
		⊗ 消防署		
		⊗ 警察署・駐在所		

土砂災害の危険がある場所		急傾斜地		土石流		高潮浸水想定	浸水深区分	0.5m 以上～3m 未満	洪水浸水想定	浸水深区分	10m 以上～20m 未満			
							0.5m 未満				5m 以上～10m 未満			

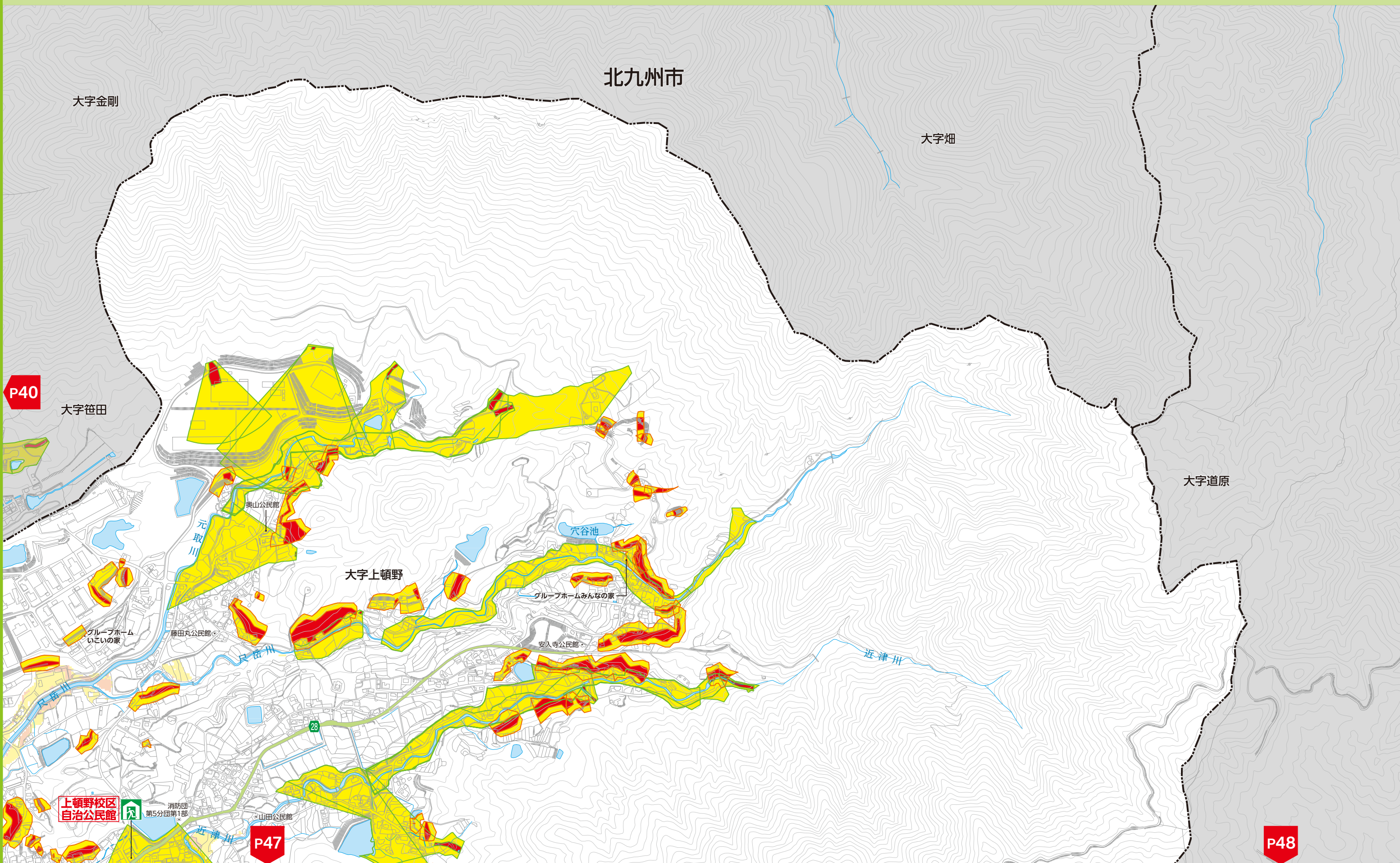


地図③

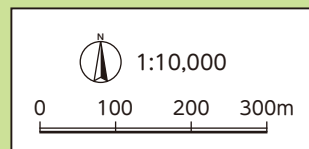


凡例		◎ 市役所 (City Office)		
		🚒 消防署 (Fire Station)		
		🚓 警察署・駐在所 (Police Station / Post Office)		




土砂災害の危険がある場所	急傾斜地	土石流	高潮浸水想定	浸水深区分	洪水浸水想定	浸水深区分	10m 以上～20m 未満	5m 以上～10m 未満	3m 以上～5m 未満	0.5m 以上～3m 未満	0.5m 未満	内水氾濫警戒区域	氾濫流	河岸侵食
	 	 					0.5m 以上～3m 未満							

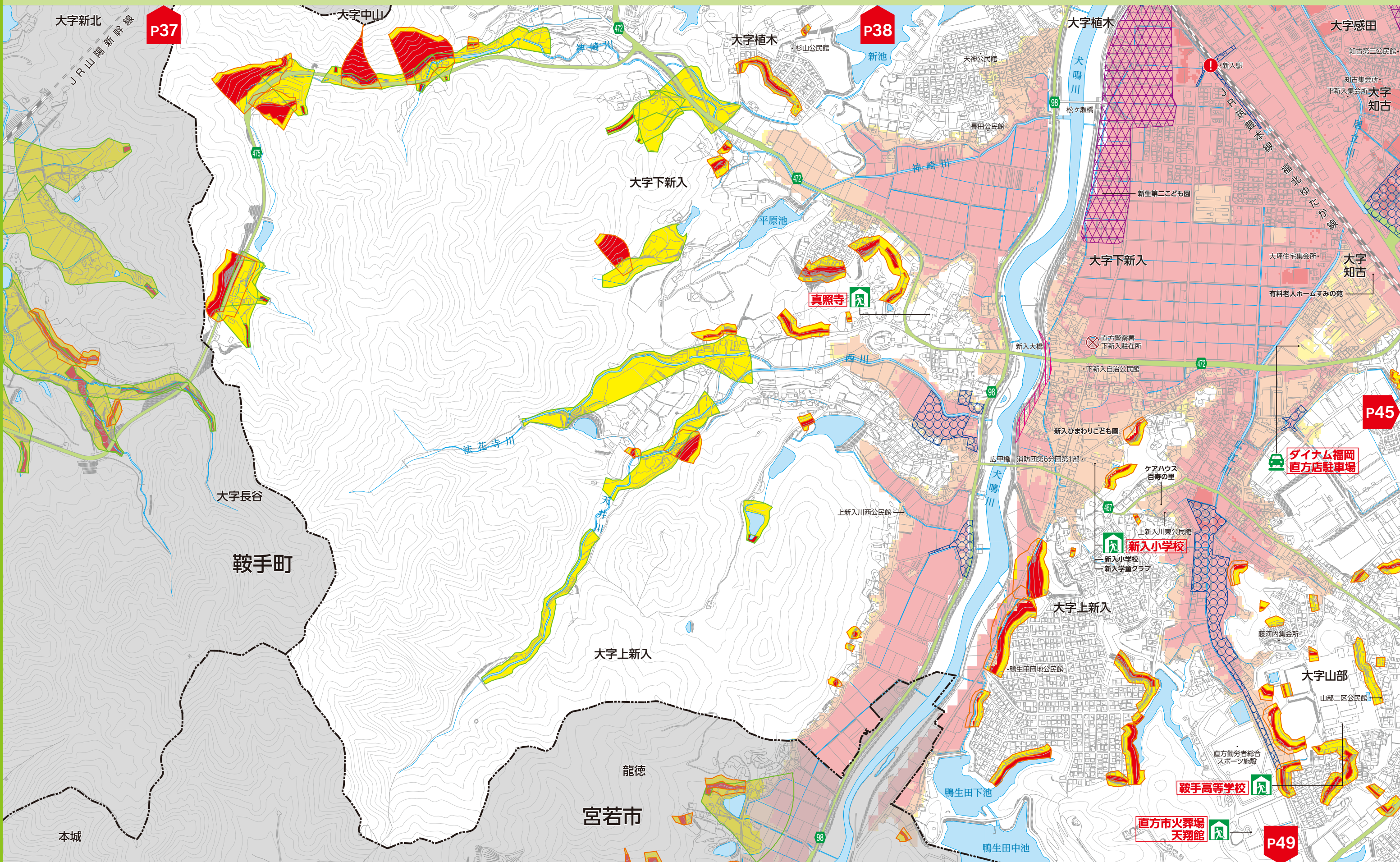


地图 4








凡 例	 指定避難所	◎ 市役所	 水位観測所	 国道
	 車中泊避難所	Ⓜ 消防署	 ライブカメラ	 県道
		Ⓜ 警察署・駐在所	 アンダーパス	

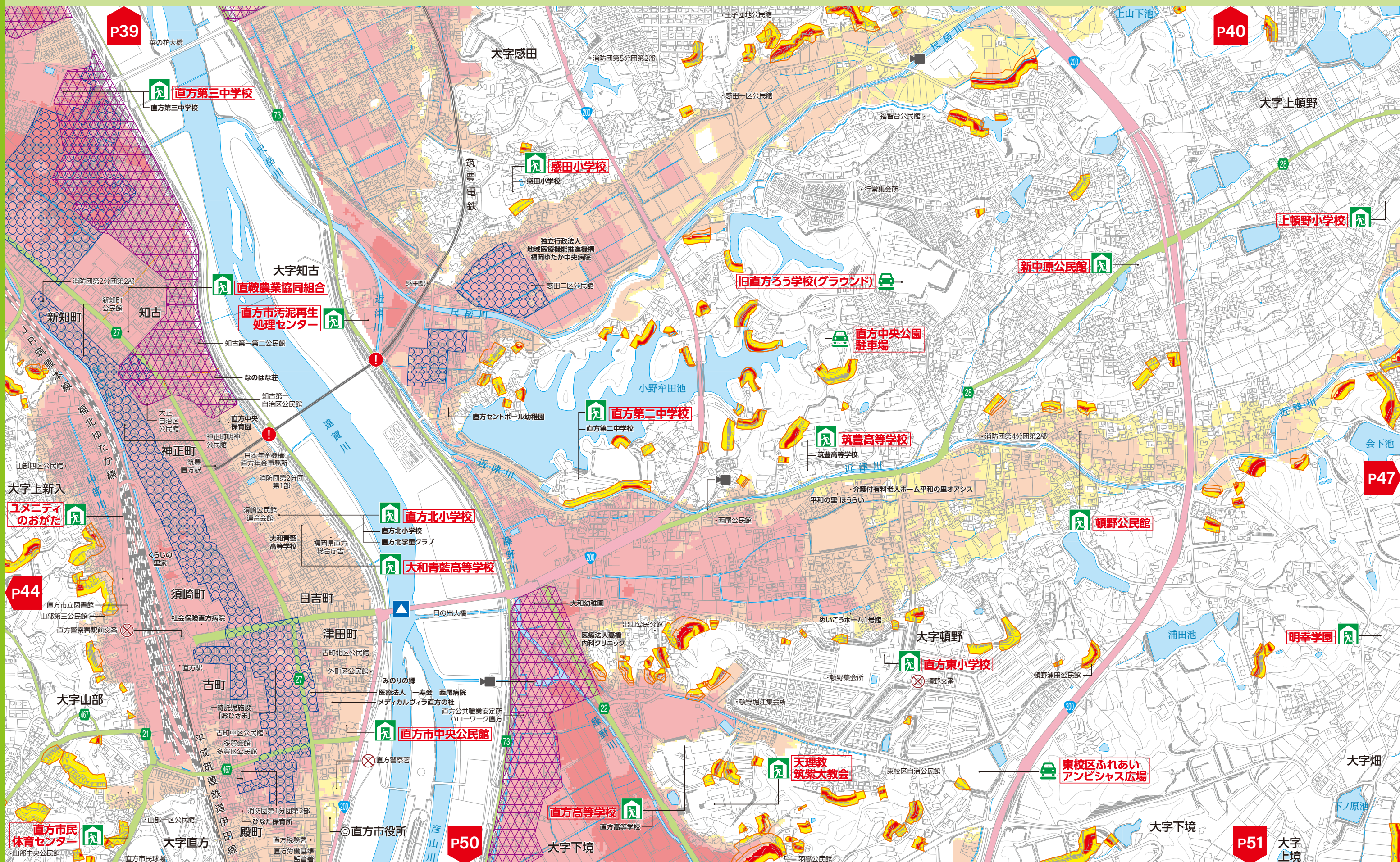
土砂災害 の危険が ある場所	急傾斜地	土石流	高潮 浸水深想定	0.5m 以上～3m 未満	洪水 浸水深想定	10m 以上～20m 未満 5m 以上～10m 未満 3m 以上～5m 未満 0.5m 以上～3m 未満 0.5m 未満			
	特別警戒区域 警戒区域	特別警戒区域 警戒区域	浸水深区分	0.5m 未満	浸水深区分		内水氾濫 警戒区域	氾濫流	河岸侵食



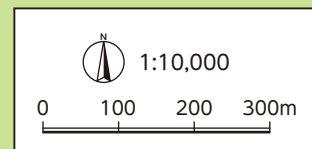
0 100 200 300m

凡 例	 指定避難所	◎ 市役所	 水位観測所	 国道
	 車中泊避難所	⦿ 消防署	 ライブカメラ	 県道
		ⓧ 警察署・駐在所	ⓧ アンダーパス	

土砂災害 の危険が ある場所	急傾斜地	土石流	高潮 浸水想定 浸水深区分	0.5m 以上～ 3m 未満	洪水 浸水想定 浸水深区分	10m 以上～ 20m 未満 5m 以上～ 10m 未満 3m 以上～ 5m 未満 0.5m 以上～ 3m 未満 0.5m 未満	 内水氾濫 警戒区域	 氾濫流	 河岸侵食
	 特別警戒区域 警戒区域	 特別警戒区域 警戒区域		0.5m 未満					

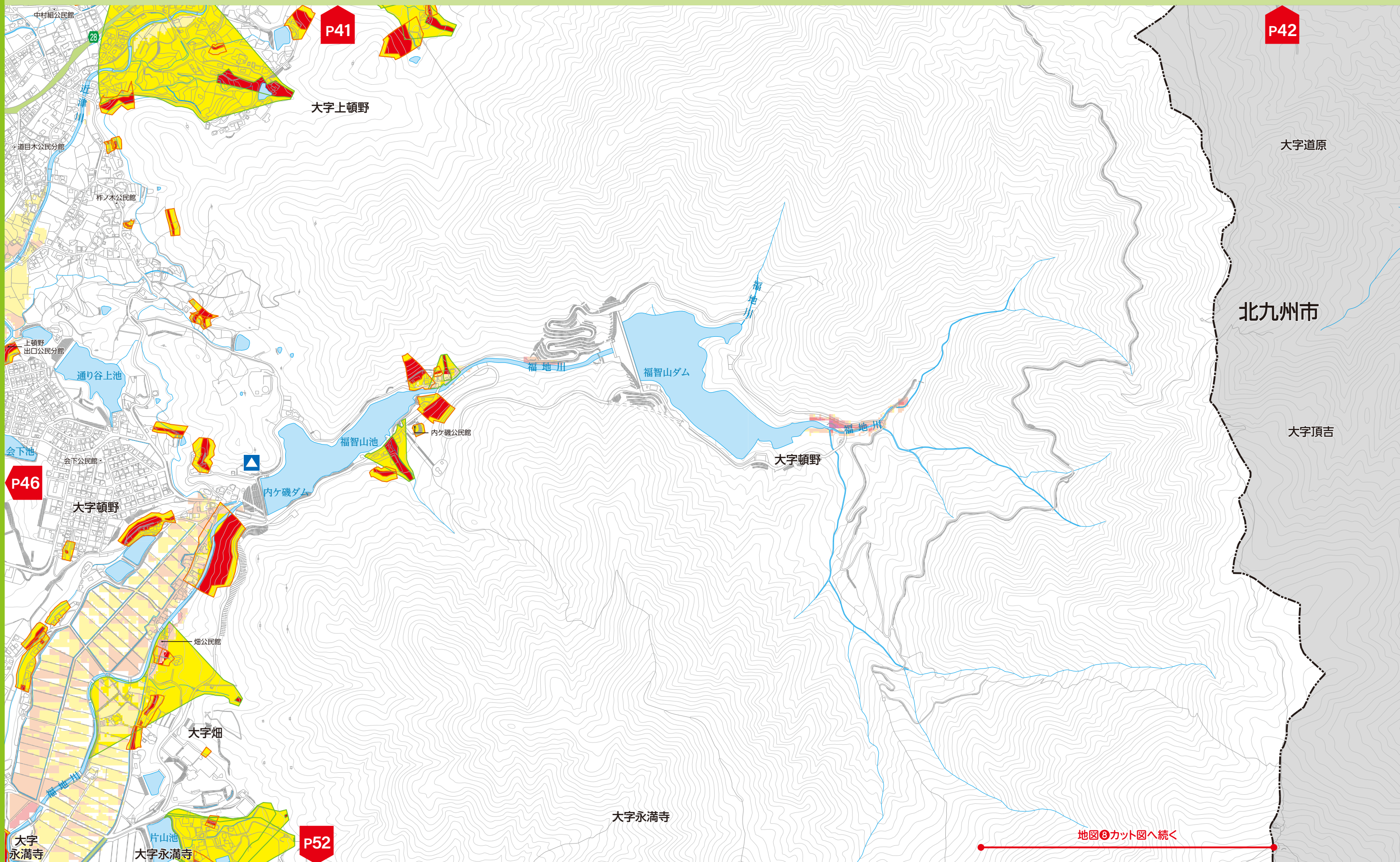


地図⑥

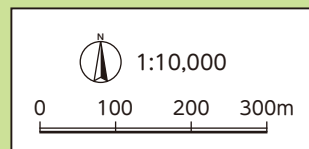


凡例		指定避難所	◎ 市役所		水位観測所		国道
		車中泊避難所	🚒 消防署		ライブカメラ		県道
			🚓 警察署・駐在所		アンダーパス		






土砂災害の危険がある場所	急傾斜地	土石流	高潮浸水想定	浸水深区分	洪水浸水想定	浸水深区分	10m 以上～ 20m 未満 5m 以上～ 10m 未満 3m 以上～ 5m 未満 0.5m 以上～ 3m 未満 0.5m 未満			
	 	 		0.5m 以上～ 3m 未満 0.5m 未満						

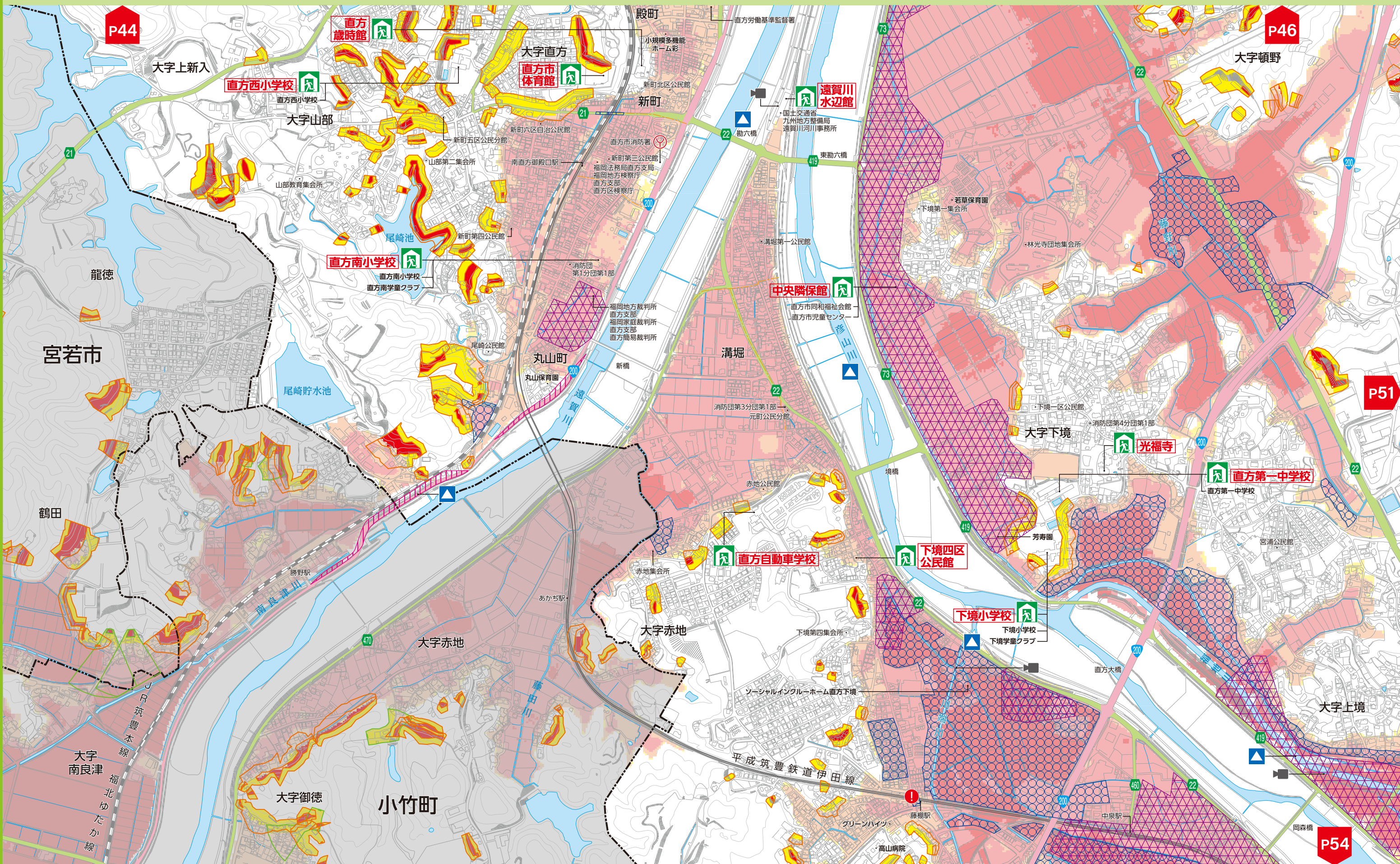


地图 7

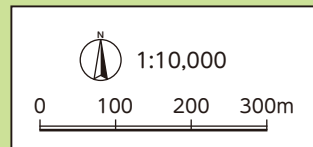


凡 例	 指定避難所	◎ 市役所	 水位観測所	 国道
	 車中泊避難所	⊗ 消防署	 ライブカメラ	 県道
		⊗ 警察署・駐在所	! アンダーパス	






土砂災害 の危険が ある場所	急傾斜地	土石流	高潮 浸水想定 浸水深区分	0.5m 以上～ 3m 未満	洪水 浸水想定 浸水深区分	10m 以上～ 20m 未満 5m 以上～ 10m 未満 3m 以上～ 5m 未満 0.5m 以上～ 3m 未満 0.5m 未満	 内水氾濫 警戒区域	 氾濫流	 河岸侵食
	 特別警戒区域 警戒区域	 特別警戒区域 警戒区域		0.5m 未満					

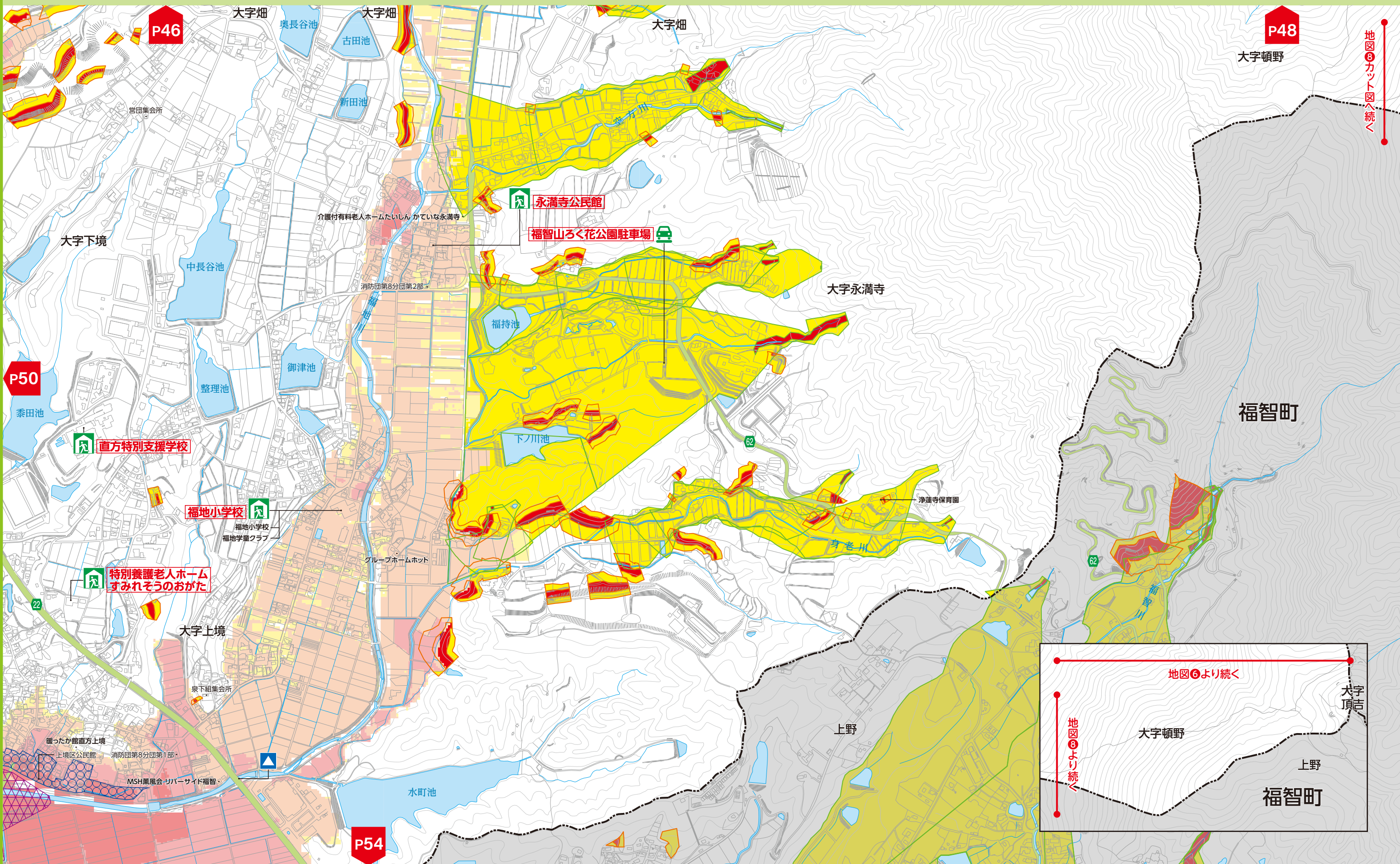


地図⑧

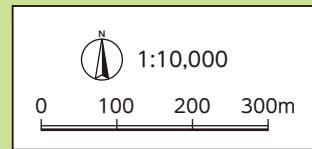


凡例		指定避難所	◎ 市役所		水位観測所		国道
		車中泊避難所	⊗ 消防署		ライブカメラ		県道
			⊗ 警察署・駐在所		アンダーパス		

土砂災害 の危険が ある場所	急傾斜地		土石流		高潮 浸水 想定	浸水 深区 分	0.5m 以上～3m 未満	洪水 浸水 想定	浸水 深区 分	10m 以上～20m 未満 5m 以上～10m 未満 3m 以上～5m 未満 0.5m 以上～3m 未満 0.5m 未満		内水氾濫 警戒区域		氾濫流		河岸侵食
	 特別警戒区域  警戒区域	 特別警戒区域  警戒区域	0.5m 未満													

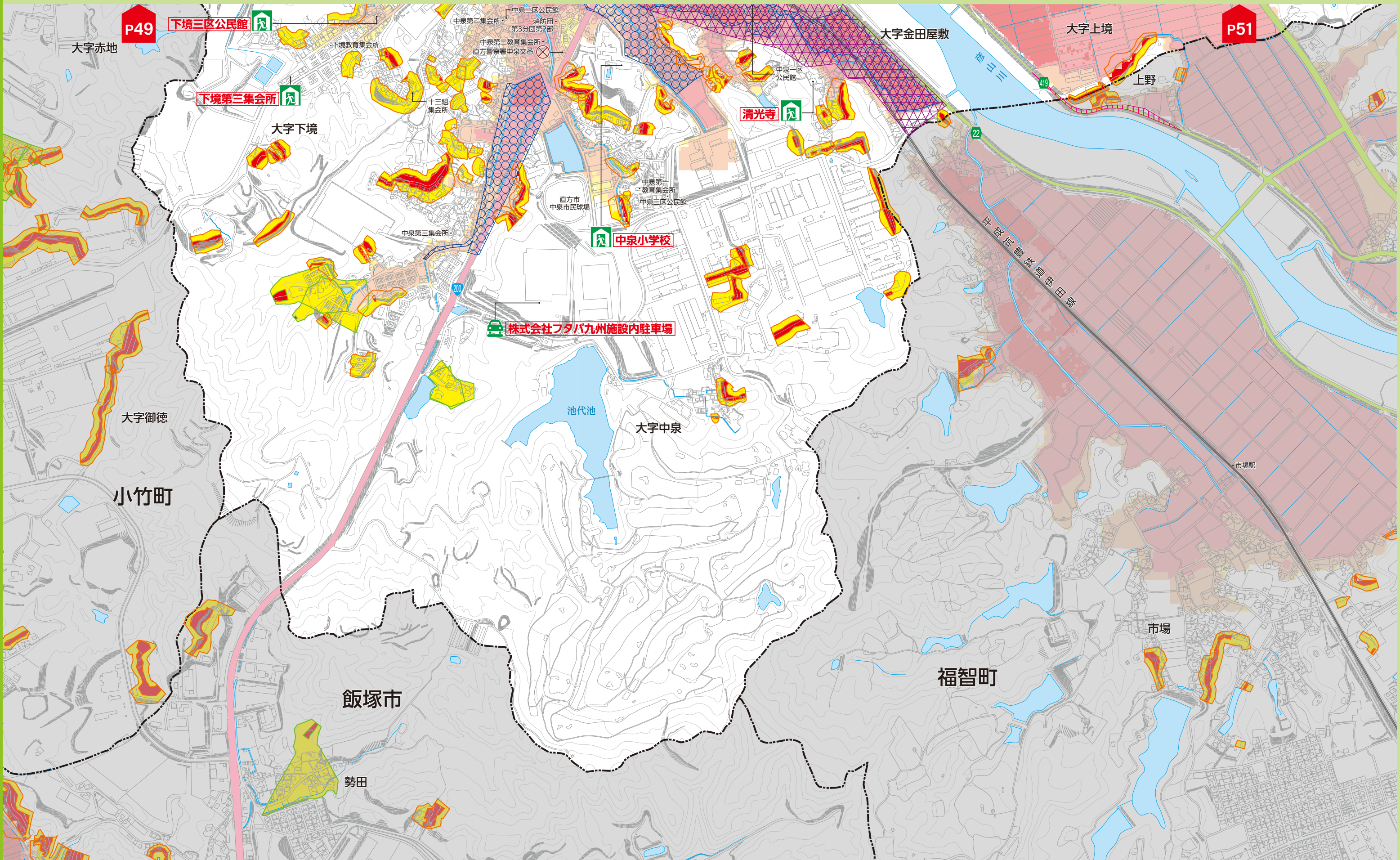


地図 9



凡 例		◎ 市役所		
		⊗ 消防署		
		⊗ 警察署・駐在所		

土砂災害 の危険が ある場所	急傾斜地	土石流	高潮 浸水想定 区分	浸水深区分	洪水 浸水想定 区分	10m 以上～20m 未満 5m 以上～10m 未満 3m 以上～5m 未満 0.5m 以上～3m 未満 0.5m 未満			
	 警戒区域	 警戒区域		0.5m 以上～3m 未満 0.5m 未満					



わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。

家族の集合場所

集合場所	避難所・避難場所	連絡方法

家族の連絡先及び救急情報

氏名	続柄	電話番号(自宅・携帯)	生年月日	血液型	かかりつけ医療機関	救急情報(持病・アレルギー・常備薬)
				型		
				型		
				型		
				型		
				型		

親族・知人

氏名	間柄	電話番号

■ 救急医療情報 連絡先

救急車を呼ぶかどうか迷ったときは？

➡ 電話相談窓口 **#7119**
または消防署に問い合わせください。 ☎ **25-2303**

休日、祝日に開いている病院は？

➡ 市ホームページまたは消防署に問い合わせください。

小児の急病などで相談したいときは？

➡ 小児救急医療電話相談 **#8000**
開設時間午後7時～翌朝7時(年中無休)

緊急
ダイヤル

消防へ火事・救急・
救助の連絡

119

※火災の時には119回線がこみ合っています。
火災の問い合わせは **050-5536-6971**

警察へ事件・
事故の連絡

110

災害発生時
(災害対策本部)

25-2002

災害用伝言ダイヤル(171)

「171」に電話をかけると、伝言の録音や再生ができます。

伝言の録音

1 7 1 + 1 + 被災地の人の電話番号
(市外局番から) → 録音

伝言の再生

1 7 1 + 2 + 被災地の人の電話番号
(市外局番から) → 再生

※災害時には電話がつながりにくくなります。

発行:直方市 防災・地域安全課 TEL:0949-25-2223 作成:令和7年11月

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 4JHs 535-T40204A1Y」

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 167-560号」

「JIS Z 8210 避難所(建物)」

(禁無断複製)©2025 ZENRIN CO., LTD.